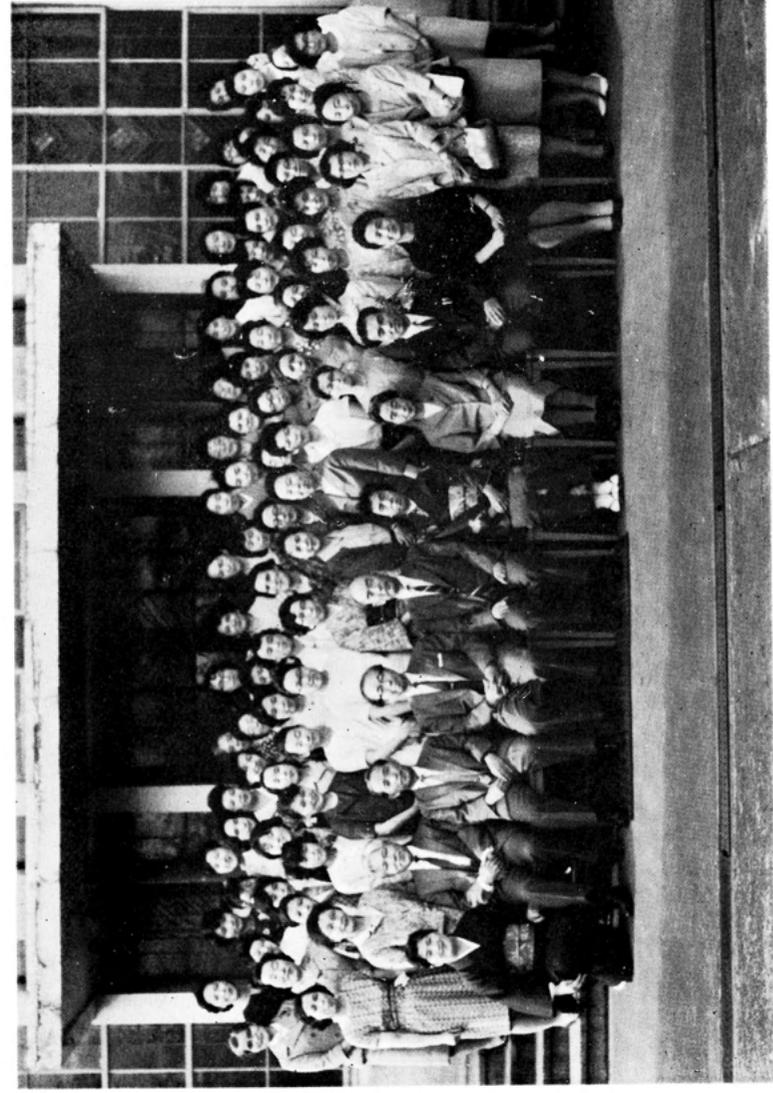


會 報

第 8 号

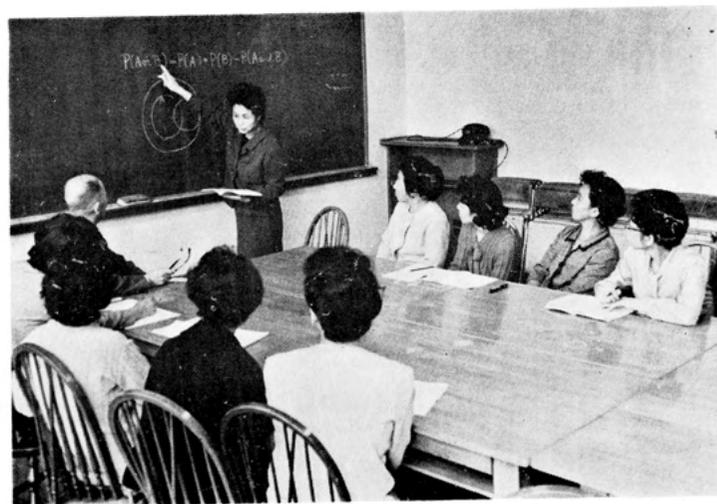
東京女子大学同窓会 数専会



小林先生感謝会(41.5.28)



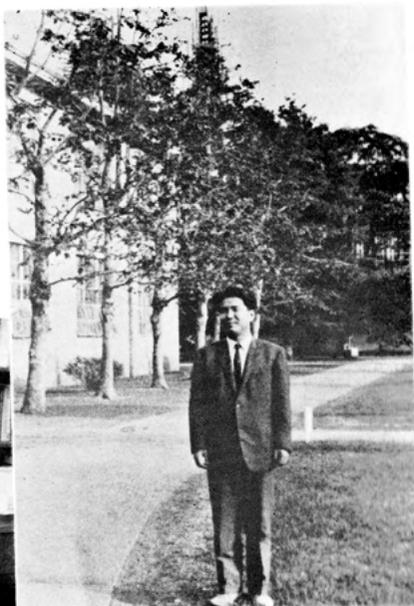
数理科の先生方 (40. 3)



研究会 東京新聞提供 (40. 11. 6)



新任の先生 松原 稔先生



笹尾靖也先生 (41. 4)



追分研修会 (40. 8. 18)



総会 (40. 11. 6)



S・S会パーティー (40. 11. 27)

目次

| | | |
|---------------------|--------|-----|
| 小林先生に贈るうた..... | 中谷太郎 | ... |
| ○小林先生感謝会 | | |
| 感謝会..... | 堀すみ | 1 |
| 青年小林先生を迎えた頃..... | 豊泉しげ | 2 |
| 1056名の願い..... | 山本敦子 | 2 |
| 数々の教訓を鞭として杖として..... | 黒田三重子 | 3 |
| 定年退職にのぞんで..... | 小林薫一 | 4 |
| 記念品について..... | 里村秀子 | 6 |
| ○数専会会員の皆様へ..... | 高木貞二 | 6 |
| ○誰にも語らなかったこと..... | 平野雪枝 | 7 |
| ○数理科5年の歩み..... | 小河原正巳 | 8 |
| 図書購入報吾..... | 根岸愛子 | 12 |
| ○研究会より | | |
| 読書グループ..... | 吉村たづ子 | 13 |
| オートマトンについて..... | 加藤緑 | 14 |
| 逐次決定過程について..... | 中屋澄子 | 16 |
| ○未開の功罪..... | 花岡松枝 | 19 |
| ○図書館の窓口から..... | 田中隆子 | 21 |
| ○私のあゆみ..... | 山下タミ | 24 |
| ○研究室の横顔..... | 大久保京子 | 25 |
| ○クラスだより..... | | 27 |
| ○石井鈴枝さんの横顔..... | 奈良部志保子 | 35 |
| ○同窓会募金に協力を..... | 豊泉しげ | 36 |
| ○報告 | | |
| 研究部..... | 中屋澄子 | 37 |
| 厚生部..... | 片岡ヒサ | 40 |
| S・S会..... | 中屋澄子 | 41 |
| 会計報告..... | 里村秀子 | 42 |
| ○会則..... | | 43 |

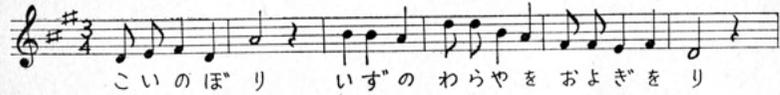
小林先生に贈る

南伊豆

昭和41年5月5日
太郎



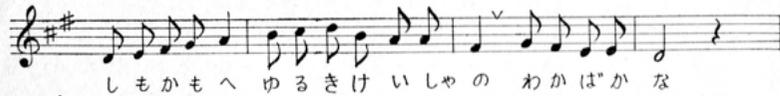
まちひくく ごかつのうみの はるかなる



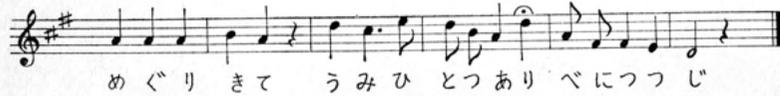
こいのぼり いすのわらやをおよぎをり



なつしほや てんぐさゆるる いろうがき



しもかもへゆるきけいしゃの わかはかな



めぐりきて うみひ とつありべにつつじ

めぐりきて 海一つあり 紅つゝじ

下賀茂へ ゆるき傾斜の若葉かな

夏潮や 天草ゆるゝ 石廊崎

鯉のぼり 伊豆のわら屋を 泳ぎをり

街低く 五月の海の遙かなる

南
伊
豆

小林先生感謝会

感謝会

(14年) 堀 す み

昭和41年5月28日(土) 2時—4時半 於東京女子大学会議室

昭和5年以来、36年の長い間母校でお教え下さいました小林薫一先生が、このたび定年退職をなさいましたことは、皆様既にご存じのことと思います。新緑の美しい母校に小林先生御夫妻をお迎えして、集う先生方、卒業生は80余名。幸い天候に恵まれ、卒業生一同の心からの感謝をこめて、この会は開かれました。

司会は溝口さん(昭、9)はじめに豊泉会長の感謝の言葉——ここに第1回より本年の卒業生までか一堂に会し、さながら教専の歴史をそのまま見るようであるが、どの時代の卒業生とも話が通じるのは小林先生ただお一人であり、教専会が時代を超えていつも和やかに、まとまりのある会として続いているのも小林先生のお蔭です、深く感謝の言葉を述べられました。

つづいて讚美歌—286番、お祈り根岸さん。(昭、24)

ここで小林先生へ記念品贈呈、卒業生の皆さまから寄せられましたものをギフトチェックにしてお贈りいたしました。

小林先生のご挨拶——毎年3月になると卒業してゆく若い人々を見て、何ともいいようのない複雑な気持を味わうのですが、それも今年で終りで、今度は逆に送られる身となりました。今後はゆとりをもって、余生を巾広く生きてゆきたいと思いと話されました。又過日学報にのせられた「36年の歩み」を読んだ卒業生から、沢山のお便りを頂き、本当にうれしかったと述べられたときには、しばし絶句され、先生のお心持をお察して涙のこみあげてくる思いでした。

平野先生は、使命感をもって教専のために一すじに尽された小林先生について語られ、中谷先生は、教専のみでなく学校全体のためにも小林先生のお力があり、今も入試には小林方式というものが受けつがれていることを述べられ、久しぶりに、独唱をきかせて下さいました。(これは別項を御参照下さい。)

卒業生の感謝の言葉は、初期の頃の代表として山下さん(昭、9)、中期を代表として山本さん(昭、23)、そして最も新しく最後の卒業生を代表として黒田さん(昭、41)がそれぞれの立場から小林先生へ感謝の言葉を捧げました。

又、2回生の樋口さんが長い間御無沙汰いたしてお詫びと共に、今日ここに出席されなかった方々の代りにと述べられた言葉は、一同の胸を打つものでした。

このあと、小河原先生、宮本先生のお話、豊泉さんの歌、千本さんたちの二重唱、そして讚美歌、神ともにいまして——を最後に、会は終わりました。

1056名の卒業生のことを常に考えていて下さる小林先生、いつも私たちの心の支えとなっていて下さる小林先生、どうぞいつまでもお元気で過ごし下さい。

青年小林先生を迎えた頃 (会長) 豊 泉 し げ

小林先生が来られた昭和五年と言えば私共一回生が四年生になったばかりの時でした。当時日本語版の数学書が少なく、代数、解析幾何学、三角関数、近世幾何学、力学演習等英語版が多かったので英語には慣れておりましたが、小林先生が射影幾何学をドイツ語でなさったのでびっくりしました。男性を見ても異性だなどあまり感じなかった私でさえ、先生の整ったみなりと流暢なドイツ語に魅せられたのでしょうか今でも妙に心に残っております。大学を出たばかりの青年で大きな夢を抱いて来られた事と思いますが私共の様なモサを前にさぞかし落胆なさった事と、今思えば冷汗ものです。女子大出は嫁に貰い手がない、まして数学等やる女は鼻もちならないと世間の批判も厳しい時、そして文部省でさえ数学専攻部の認可に難色を示した時代であっただけに大学としては容易ならぬ時でした。学生の実力が十分であれば今に見るとふとっばらでいられたでしょうけれど当時女学校は四年制と五年制があり私のように四年制の女学校を三年で終えてきた者もいたのだからそれらに一応の力をつけてやるのには先生方の御努力並々ならぬものがあつたのだと思います。それなのに私共はのんびり、先生方を外に誘い出して授業をさぼり、ついでにおごって貰って二重の得をしようと思つてをこらしたものでした。勿論団体交渉決裂と言う時もありましたがストはやりませんでした。無試験検定の事もあつたし産みの苦しみと喜びを共に背負つた創設時代、若き学徒はよくぞ逃げ出さなかつたとそれが今でも感謝の一つです。大平洋戦争と同時に四、三、二、三、四と制度が変わつただけでも苦難の程が想像出来るのにその真只中であつて重荷を負い乍らつぶやく事一つなさらずきり開いていかれた事は感謝の二つです。第一回生から現在まで就職、結婚、身上相談と36年の尊い日月を私共の為に尽して下さいました事はよくわかっているだけに筆舌に尽し難い感謝を持っています。本当に有難うございました。今後共一層御体に氣をつけて益々お元気に活躍なさいますよう祈ります。尚奥様と御二人で旅行を楽しんでられる事を伺つて心温まるおもいです。私共も学びたいとおもっております。

1065名の願い (23年) 山 本 敦 子

私たちのクラスも小林先生の受持ちでした。小林先生は私達にとって大変懐かしい存

在です。なぜ受持ちの先生が懐しいのかと申しますと、これはどうやらよく叱られたからだと思います。教育の途上で子を叱らない親生徒を叱らない先生なんて偽者だと思います。その点小林先生はこれ丈はどうしても解らせておかなければいけない、とお考えになると決していい加減にお済せになることはありませんでした。しかも私達は昭和20年、動員されていた工場や疎開先からろくに勉強もしないで女子大に入つて来ましたので、先生も余程びっくりなさつたのでしょう。「君たちは何んにも知らないんだねえ」と溜息まじりにあきれ顔でおっしゃるのです。すると何んにも知らない事が何とも情けなくて勉強しなくちや大変だという気持ちにさせられました。それは学問的なこと、数学の問題だけでなく、広く社会常識や道德教育の面まですべてです。私達はこの時代に学問に対する態度とか未知への探求心とかいったものを、しっかり植え付けられたのだと思います。

小林先生は女子大の数学科の歴史の中で、最も重要な存在です。女子大の数学科に学んだ生徒の中で誰一人小林先生の薫陶を受けなかつた者はいないのでから。そして卒業してからも私達は小林先生をはじめ数学の先生を中心に数専会という一つの家族的な集団を持っています。その中で小林先生はいわば父親的存在です。昭和初年に卒業した総領娘達は、先生と一緒に善福寺を散歩したり、衣かつぎを御馳走になつた楽しい思い出を持ち、二女三女はよく叱られてとても恐かつたけれども身に滲みて有難く頼り甲斐のある先生、そして昭和30年、40年卒の末っ子達は、どうやら自分達の我儘を目を細めて聞いて下さる優しい先生と写っているようです。私達は何か困つたこと嬉しいことが起ると一番に小林先生のところに駆け付けたくります。だから小林先生はいつ迄も御元気で居て下さらないと困るのです。これは私達1056名全部の願いなのです。

数々の教訓を鞭として杖として (41年) 黒 田 三 重 子

小林先生、長い間、いろいろとお世話様になりまして、有難うございました。私達昭和41年3月の卒業生は、4年間の大学時代に3年間も、そして、小林先生の長い教育界での御生活の最後に、担任をしていただきました。今ふりかえてみますと、大学時代は、ある意味で一番成長しえた時であつたと思います。その大切な時期の大半を、東京女子大学と共に歩いてこれ女子教育に専念されて、経験豊富な理解ある先生にお導きいただき、本当に幸わせてございました。先生は、私達の一人一人を良く理解して下さい、個人個人の長所をみとめて下さいました。入学当初は、慣れない私達をご親切に御指導下さり、2年生になって、一寸たるみの出て来た頃は、学問の大切さを折りにふれて話して下さい、私達の氣持をひきしめて下さいました。時々「あ

なた方の先輩は、ただ数学が勉強したくてここに来たのですよ」とか、「今でも一ヶ月に何回かゼミで皆集まって勉強しています。」等というお話を聞かせて下さいました。「私達も先輩を見習って、いつまでも勉強したいわね。」等と自己をかえりみて反省したり、気持ちをひきしめたことが、たびたびでございました。

四年生になつた時、又々御縁があつて、先生の御厄介になり、いろいろ御面倒をみていただくことになり大学生活の最後の年を、先生と共に、学生生活の総まとめとして、楽しく、有意義にすごさせていただきました。

いつも先生には、御迷惑ばかりかけて参りましたのに、何ら酬いることもできずに卒業してしまいました。先生のお教え下さいました数々の教訓を鞭として又杖として、十年後、二十年後にも、先生の「一年一冊の専門書を……」のお言葉を実行していきたいと思っております。

謹んで先生の御健康と御自愛を心からお祈りし、御挨拶に代えさせていただきます。

定年退職にのぞんで

小林 薫 一

このたび、私が東京女子大学を定年退職になりましたにつき、本日は私たち夫婦のためにこのような盛大な会をお開きくださりまして、まことにありがとうございます。それに、ただいまはみなさんから身に余るかすかすのお言葉とともに記念品までちょうだいし、重ねがさねのご厚情に深く感謝いたしました。生涯の光栄と存じ、厚くお礼を申しあげる次第であります。

実は、先日豊泉会長から本日のご招待をうけたのでありますが、いつもみなさんからは公私ともにいろいろとお世話様になっていますのに、私からはたいしたお手伝いもできず、果しておうけしてよいものかどうか、だいぶ迷ったのであります。しかし、折角のご厚意でもありますので、このさい素直におうけして、生涯の思い出にしたいと考え、ここに罷出た次第なのであります。

おもえば、ずいぶん長い間の「女子大仕え」でありました。「十年一昔」という言葉がありますが、この流儀でいえば、36年の歳月は「昔、昔その昔」ということになって、ずいぶん古い過去のことになるわけです。私が、はじめて教師になったのは大正13年でありましたが、先日その当時の生徒の人から電話がありまして、

「こんど、私の娘が女子大における先生の最後の教え子として卒業する。私たち親子は、はからずも先生の最初と最後の教え子になった。」といわれて、いまさらながら時の流れの速いにおどろいた次第でありました。

さて、在職中嬉しかったことといえば、なんととっても数専会のみなさん方と喜怒

哀楽をわかちあい、われわれの宿願達成のために精進できたことであります。

私が就任した当時には、まだ角管時代の楽園名残りをとどめており、家族のような、私塾のような、まことになごやかな楽しい雰囲気がありました。そして、教師と学生との結びつきは深く、授業をしてみても実に自由で明るい感じをうけたものであります。

初代学長であつた新渡戸先生がそのころの学監であつた安井先生に向つて「学校にしてはいけませんよ」とたびたびいわれたそうですが、この精神は大正11年東京女子大学の第1回卒業式に「ジュネーブ湖畔より」をよせられた先生の祝辞のなかからも十分によみとることができましよう。

「此の学校は御承知の通り我邦に於ける一つの新しい試みであります。従来我邦の教育は兎角形式に流れ易く、知識の詰込みに力を注ぎ、人間とし、又一个の女性としての教育を軽んじ、個性の発達を重んぜず、婦人を社会、而も狭苦しい社会の小機関と見做す傾向があるに対して、本校に於ては基督教の精神に基いて個性を重んじ、世の所謂最小者をも神の子と見做して知識よりも見識、学問よりも人格を尊び、人材よりも人物の養成を主としたのであります。」

この学風は安井先生によっては「サムシング」という言葉によって表現されましたが、このような環境のなかで過すことができましたことは私にとって、このうえもない幸せなことであります。

つぎに、3月の声をきくと、私は毎年嬉しいような、淋しいような複雑な妙な気持におそわれるのがつねでありました。それは立派に成長して学窓を出てゆく若い人々の晴れがましい姿をみて、心からおめでとうと申さずにはおられない気持と、それとはうらはらに若い人々にとり残されてゆくという虚脱感、それからくる淋しさは彼女らの門出を祝福する心にもまして、ひしひしと教師の胸にせまるものがあつたからであります。

これを送る側からみれば「相手かわれど主かわらず」のたとえどおりで、いつも水の流れをみてくらす岸辺の柳にもたとえることができます。ところが、立場をかえて送られる側に立ってみて、はじめて感じましたことは、やはり一種の解放感で、学生たちが味わう卒業感にも、にたものであります。そして、これからはものをみるめにも、心のゆとりをもって幅広い余生を送りたいものとながっております。

さいごに、先日おめにかかけました学報は対してみなさんから沢山のお便りをいただき感謝のほかございませんでした。ただ、残念だったことは部数に限りがあつて、全部の方々にお送りできなかったことであります。戦前、戦中、戦後の各時代の人々からちょうだいしたさまざまな文面を、その人その時代を偲びながらよむことができた

ことは近来にない快事でした。ただ、心残りのことは、えんま帖にそえてあったうたの作者がいまだに名のりです、いまのところ「よみびと知らず」になっていることです。どなたか心当りの方はありませんか。(1966. 5. 23)

記念品について

(17年) 里村秀子

この度小林先生のご退職に当り、私共お教えを受けた1人1人の感謝の気持をまとめて記念品をお贈りしてはと存じ、数専会の皆様に呼びかけましたところ、先生方をはじめ学校関係の方々も加えて多くの方々のご賛同を頂きまことに有難うございました。

総額は520,800円(贈呈後のものも合せて)に達しましたが、特に先生のご希望の指定もございませんでしたので、数専会の席で記念品代として48万円のギフトチェックにお花とお祝いのお菓子を添えてお贈りいたしました。

なお諸経費31,070円を差引いた残金9,000円ほどは追って先生に差上げることいたしますのでご了承下さい。

ここにご報告をいたし、皆様のご協力に感謝いたしますと共に諸々不行届きがありましたことを深くお詫びいたします。

数専会会員の皆様へ

高木貞二

皆様に紙上でご挨拶いたす機会を与えられましたことを、この上なく幸いに存じます。

数専会の席上で皆様と最後にお会いいたしましてから、もうどの位の時が経った事でしょうか。すでに二年も三年も経ったようにも思われますし、またつい先頃の事であったようにも感ぜられます。皆々様、その後も御健康で、そして度々お集まりになって楽しいつどいをなさっていらっしゃる事とお察し申し上げております。私も幸いに健康を保持しておりますが、昨年五月から、また新しい仕事に関係いたすこととなり、かなり多忙な日々を送っております、悠々自適というような生活とは程遠い毎日を送っております。

しかしその生活のうちでも、東京女子大学に勤めておりました時の、さまざまな思い出が、大きな力となって私を支え、励まし、慰めてくれている事を思い、ほんとうに嬉しく存じております。殊に、数専会の皆様の、ひとつによく纏まった友情、熱心

な愛校心、奉仕的な気持ちは私に多くの感動と力とを与えてくれました。私はそれを以前から感謝し、今もそれを憶えて感謝しております。

私の退職に際しましては、皆様から、お心入れの二つの記念のものをいただきまして、まことに有難うございました。一つは皆様方のお編みになったレースのテーブルクロスであり、今一つは一丈以上もある泰山木であります。テーブルクロスは何か大切な機会には必ず使わせていただきまして、その手編みの一目一目に感謝の思いを寄せております。泰山木は昨年の初夏、白い大きな、そして芳香を放つ花を開いて私共を喜ばせてくれました。

今年に入って四月から以前の住居の近くにささやかな新居を構えまして、そちらに引き移りましたが、その際、庭木のうち第一着に移し植えましたものが、その泰山木でございます。そしてその木は、これから、きっと毎年美しい花をつけて私共を慰めてくれる事と信じております。そしてそれと共に皆様の温いお心持ちも、いつまでも私共の胸のうちに残ることと思います。

皆様の御健康、数専会の御活躍、そして東京女子大学数理学科の御発展を心よりお祈りいたします。

誰にも語らなかつたこと

平野雪枝

最近女子大の学报に「36年の歩み」と題して小林先生がお書きになった文を、多くの方が興味深く読まれたことと思う。その記事の終りに女子大創立第1年の数学の入試問題を掲げられたが、これを見られた方々は随分奇妙な問題を出したものだと感じて苦笑されたに違いない。ところがこの出題の責任者は他ならぬ私であった。

大正7年3月も半ば過ぎ私は安井先生から至急のお手紙を頂いて始めて大塚坂下町の先生のお宅をお訪ねした。紺色の大きな前垂れをかけて机に向い忙しく事務を執っておられた先生のお姿が今も印象に残っている。おどおどしている私に、学校の設立認可が間もなく下りる筈であるから生徒募集の準備をしなければならない、ついでに早速数学の入試問題を作ってくるように、とのお言葉であった。これには私もすっかり驚き当惑させられた。というのはそのとき私はやっと23になったばかり、学校を出てから2ケ年の間母校で物理実験を担当していたが、数学教員としての経験も資格もなかった。4月からは新設の女子大で事務の手伝でもさせて頂くつもりであったから、こんな責任の重い仕事は到底やれないと思った。併し仕方なくお受けして引き下がった。

4月から就任される教職員の中には理数関係の方が1人もおられないらしく相談相手もなく、又最初の試験であるから参考にする前例もない、全く心細い限りであった。私は当時入試に数学を課していた唯一の女子の学校東京女高師の入試問題を丹念に調べ、また幾冊もの教科書を参照し、地方の公立高女とミッションスクールからの受験者が大多数であることを予想しながら（女高師は師範学校出身者が主に志願した）、出来るだけ平易で簡単な問題をと考えて選んだのがあれであった。今見ると随分古臭い気の利かない問題を出したものだと思われるが、当時の高等女学校は男子中学校に較べて程度が著しく低かった上に、数学といえば算術が主であって上級に幾何の初歩と僅かの代数が課されていた。それで入試も算術と幾何の二科目を採ることにした。猶第1年目は募集から試験までの期間が非常に短かったため、各学科とも試験程度を示す参考教科書を上げることになり、数学は藤沢喜太郎氏の算術、菊池大麓氏の初等幾何などを指定したか、これらの書物も今は古典となってしまった。

とにかく以上のような事情はどなたもご存じない筈だが、私はあの古色蒼然たる入試問題が創立15年回想録に載せられて今なお残っているのだが何となく気がかかって、こんなものが誰の眼にもとまってくれないようにといつも願っていた処、偶々今度小林先生に探し出されてしまった。数学専攻部の歴史以前を知る人も殆んどなくなった今日、私も勇気を奮って誰にも語らなかつたことを茲に告白したわけである。

(1966, 5, 26)

数理学科5年の歩み

小河原正巳

数理学科が開設されてから、ちょうど5年たちましたので、この際これまでの経過を数専会のみなさんにお知らせし、記録にとどめておきたいと思ひます。

数理学科は短期の3年を単に1年延長したのではなく、全く新しく開設されたもので、そのために、みなさんの熱意と図書費のご寄贈が非常な助けになったことは、前の会報にも書きましたが、その後もご寄附やダンスパーティなどの事業で、引きつづいてご援助くださっていることに対して、心から感謝申し上げます。なおこれについての詳しい報告は根岸さんを書いていただくことになっています。

数理学科の発足までには、理学部案の長い検討の期間があつて、結局文理学部としての案がきまつたわけですが、昭和35年の日記をあけてみますと、

7月11日、学長の指示により、正田・玉虫・小河原、学生会館に会合、新設数学科の学科課程とその担当者について検討

といったような記録も、所々に見られます。新設学科は正田健次郎教授が来られて、できたようなものですが、新制大学制度に詳しい玉虫文一先生のお骨折りもあつたわけです。

研究室や図書室および専門雑誌の拡充・整備など細かいことは略しますが、短期大学部数理科の教員のうち、中村先生は短大に残られ、他は文理学部所属になり、また魚返講師、根岸さん留学中代理の山ノ下講師のほか、新たに森口講師、宇野講師など、第一級の学者を委嘱することができました。

昭和36年1月12日の実地審査の結果、委員の勧告で、3年次のほか、2年次学生も編入学でとることになり、3月27、28の両日、編入筆記試験と面接を行い、30日の合格決定会議で、2年次へは短期1年からの合格者22名と文学部1年からの転科4名が認められ、3年次へは短期2年から21名、短期3年をその年に卒業したものから5名、合せて26名が合格しました。なお、さかのぼって1月13日正田先生来学され、和田淳蔵助教授を加えることに内定、このようにして数理学科が発足しましたが、それまでの短期の教員は、残された学生が卒業するまでの2年間は、短期の方も担当したことはいうまでもありません。

その後の人事移動は、すでにご承知のように、昭和37年4月、正田教授が大阪大学基礎工学部長に転出、代って寺阪教授（都合で9月までは非常勤）がおいでくださいましたが、正田先生も引きつづき講師として、学生指導のため多くの時間をさいてくださいます。森口講師は海外出張のため10月から開講（それまで小河原が代講）、昭和35年7月末にシカゴに留学された根岸さんは37年7月12日羽田着で帰任、高村さんは、昭和39年8月ドイツに留学、留守中松原稔講師が代講、高木学長は39年8月末でご退任、木村現学長が就任されました。昭和40年4月寺阪教授上智大学に転出、ただし後任がきまるまでの1年間、それまで通り授業を担当されました。助手の移動は次の通りです。加藤公子さん：36年4月—37年3月、石井千恵子さん：36年4月—37年9月、鈴木啓子さん：37年4月—40年3月、大久保京子さん：37年10月—現在、橋詰昭子さん：40年4月—現在、なお学科主任は37年9月まで小河原、39年9月まで寺阪教授、以降再び小河原が犠牲と奉仕をしています。

各年度の入学志願者数は次の通りです。ただし昭和40年度までは定員39、41年度から定員45になりました。

| 年 度 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | 41 |
|------------------------|----------------------|----------|----------|----------|-----|----------|
| 志 願 者 数 | 235 | 220 | 218 | 186 | 249 | 348 |
| 入 学 者 数 | 23 | 31 | 29 | 34 | 51 | 42 |
| 編 入 学 } 転 科 ・ 退 学 } | (2年次) 26 (3年次) 26 | +2 -1 | +1 -1 | +2 -1 | +1 | +3 -2 |

各年度の学生数もあげておきましょう。(括弧内は担任)

| 年 度 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | 41 |
|------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 4 年次 | — | 26(小河原) | 27(和 田) | 23(小河原) | 31(小 林) | 30(小河原) |
| 3 年次 | 26(小河原) | 26(和 田) | 23(小河原) | 31(寺 阪) | 30(小河原) | 35(松 原) |
| 2 年次 | 26(高 村) | 24(中 谷) | 32(小 林) | 31(根 岸) | 35(和 田) | 51(根 岸) |
| 1 年次 | 23(中 谷) | 31(小 林) | 29(根 岸) | 34(和 田) | 51(根 岸) | 43(中 谷) |
| 計 | 75 | 107 | 111 | 119 | 147 | 159 |

すでにこの春、第4回の卒業生を送り出し、これまでに東京女子大学は合計107人の理学士を社会に出したことになります。それらの卒業当時の就職先は、次のように

| 年 度 | 38 | 39 | 40 | 41 |
|---------------|----|----|----|----|
| 卒 業 数 | 26 | 27 | 23 | 31 |
| 就 職 先 | | | | |
| 会 社 ・ 銀 行 | 16 | 15 | 13 | 16 |
| 民 間 研 究 所 | | | | |
| 教 員 | 6 | 7 | 3 | 7 |
| 大 学 の 助 手 | 1 | 1 | 3 | 5 |
| 出 版 社 | 0 | 1 | 2 | 0 |
| 大 学 院 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 就 職 し な い も の | 2 | 3 | 2 | 3 |

年々ほぼ同じような傾向を示しておりまして、約半分は計算機プログラミング、またはそれに関連した仕事についています。なお昭和6年以来の卒業者は数学専攻部263、数学科263、2年制数理科144、3年制数理化279、合計949(このうち約20人が逝去)、これに上記数理学科を合計すると1056となります。

卒業生のなかで、数理学科の講義を聴講された方も、赤江恵美子さん、寺田陽子さん(ともに昭22卒)など、すでに何人かおられます。

数理学科の特徴は、といえば、まず第一に1年次から一般教育科目や外国語など(これは大体4年次までにとればよい)のほかに専門科目もはじめます。第二に解析学・代数学・幾何学といったいわゆる純粋数学のほかに、統計学・応用解析学・物理数学のような、いわゆる応用数理解析の講義もかなり多く設けてあります。もっともこの程度のことは、いまでは多くの大学でもやるようになりましたが、コースを純粋・応用と画然とわけないで運用するところに妙味もあろうかと思っています。第3に卒業研究を行い、その報告(論文)を書くのが必修になっています。これを学部でやるのは無理で、少しでも多く講義や演習をした方がよいという意見もあろうかと思いますが、それもやり方次第で、この5年間の経験では、やはりよく理解させるのに

大いに役立っているようです。卒業研究で各教授に指導された学生の数は次のようになっていきます。

昭和37: 正田6 寺阪2 和田9 小河原7 玉虫・渡辺2

38: 正田5 根岸3 寺阪3 和田4 小河原9 遠藤2 玉虫1

39: 正田1 寺阪5 根岸5 和田5 小河原5 遠藤1 玉虫1

40: 正田4 寺阪3 根岸7 和田6 小河原10 遠藤1

(昭和41: 正田4 笹尾3 根岸3 松原2 小松原6 森口3 遠藤・黒星9)

卒業研究報告は各研究室に保存されていますが、統計数学関係の論文は、東京女子大学学会の研究費で刊行されている<統計学研究>に発表されています。

数学研究室では、数理学科ができて、はじめの3年ほどは、助手も加わって、毎月談話会をもち、各専門分野における話題を紹介してきましたが、最近はそれぞれの専門ごとに学外の人と一緒に研究会をもつようになりました。

さて、昭和41年度を迎えるに当たって、小林先生が停年退職され、和田先生が早稲田大学に移られることになりました(ただし両先生とも講師としてことしも講義を担当してくださっています)ことは甚だ残念ですが、しかし新たに笹尾靖也先生と松原稔先生として迎えることができました。笹尾先生は昭和35年3月東大の博士課程を卒業され、位相幾何学がご専門です。松原先生も昭和36年に東大の博士課程を修了され位相解析を研究されています。両先生とも若い学者ですがすでに立派な研究論文をいくつか発表されています。いうまでもなく、大学の教育は、研究を中軸にしてなされなければならないわけで、このように活潑に研究活動をされている先生を得たことはよろこばしいことです。なお、ことしから、半年の特別講義として、新たに山本欣子講師(23年数専卒)の電子計算機のプログラミングの講義がはじめられたことを、つけ加えておきましょう。

ことしは東京女子大学全体としても、前進への第一歩を印した年で、卒礼に新しい短期大学部ができ(中村先生もことしから文理学部になりました)、また文理学部新しい建物を建築するための募金もはじめられていることは、ご承知のとおりです。一方、大学院などに関する委員会もできています。

安井先生が昭和2年にまかれた種は、数理学科ができて、やっと花が咲いた、と小林先生はいわれましたが、これから大学院ができてはじめて、実ったということになると思います。そのためには、研究活動が一層活潑になるように、さらに教授陣を充実し、設備その他いろいろな点を改善してゆかなければならないでしょう。今後とも、数専会諸姉の温いご支援をお願い申し上げる次第です。

図書購入報告

根岸愛子

研究室の図書の世話をしておりますので、数専会の募金による図書の購入の御報告をさせていただきます。数理学科が発足の時、皆様の御協力により、多くの図書を募金でそろえることが出来ました。その後もダンスパーティーその他で毎年御援助をいただきまして、現在の状況は次の表のようになっております。

| | 昭和36年11月現在 | | 昭和36年12月～ 昭和41年3月 | | 昭和41年3月現在 | |
|------|------------|------------|----------------------|----------|------------|------------|
| 募金総額 | 1,801,817円 | | 191,629円 | | 2,073,436円 | |
| 購入図書 | | | | | | |
| 洋書 | 543冊 | 1,333,315円 | 120冊 | 292,310円 | 663冊 | 1,625,625円 |
| 和書 | 218冊 | 106,640円 | 43冊 | 39,310円 | 261冊 | 145,950円 |
| 雑誌 | 12種 | 92,980円 | 2種 | 22,700円 | 14種 | 115,680円 |
| 製本 | 0 | | 2種 | 6,800円 | 2種 | 6,800円 |
| 合計 | 1,532,935円 | | 361,120円 | | 1,894,055円 | |
| 残額 | 348,872円 | | | | 179,381円 | |

去年の総会の時、まだお金が余っているので、どんどん図書を買うようにと、かえってお叱りをいただいて恐縮しましたが、昨年一年間で洋書18冊和書33冊計95,660円購入いたしました。まだ18万円近く余っておりますが、皆様の数理学科を思う心のもっているお金ですから、是非買いたい大きいものが出て来た時に、有効に使いたいと思って、大切にに使わせていただいております。このようなお金のプールがあることは、大へん心強く有難く存じております。

研究会より

研究部が始って10年目をむかえ、その間絶え間ない努力がつけられて来たのですが、まだ研究発表というほどのことは出来ません。ただ私たちが平素勉強しているほんの一部分を、ここに紹介させていただきます。

読書グループ

(22年数専) 吉村たづ子

私共のグループは、主として家庭の主婦で小さいお子様のおられる方も多く、月一回集って、自分一人では中々読めないような本を読むのですから、研究というような大それたことではありません。それで、今まで読んだ本の紹介だけさせていただきます。

- 37年以前 数学入門上下, エレクトロニクスの話, 宇宙と星, 生物と無生物の間 —以上岩波新書—
 知能の心理学 —みすず書房—
 37年9月～ 現代数学の考え方 遠山啓著
 38年10月 —明治図書—
 38年11月～ 現代論理学入門 沢田充茂著
 39年1月 —岩波新書—
 39年2月～ 月物理の散歩道 ロゲルギスト著
 4月 —岩波—
 39年5月～ Elementary Analysis
 40年12月 H. C. Trimble, Fred W. Lott, jr. 著 —Merugen Asian Edition—
 41年1月～ 教師のための数学入門
 現在 関数図形編 遠山啓著 —国土社—

本のリストは以上ですが、最近の一、二について報告しましょう。

Elementary Analysis は、忘れてしまった英語に苦労しました。1回目に読めたのはたった6頁、本は600頁あるのですから、「この本を読み終える頃にはおばあさんになってしまう。」と天谷さんがいわれて、次回から各自に割当て、その部分を説明することにしました。それでも二年近くかかってどうやら終わったことになったわけですが、皆々自分の当たった所だけ明るくて、後はぼうとしているという情けない読み方でした。

この本の内容はそれ程高度の数学というわけではありませんが、大体一貫した思想で書かれております。それは最後の章に“Mathematics is the study of structures”と強調されています。中谷先生の御批判では、structure ということを出したのはいやが、こういきってしまうのは、量の面を無視しすぎてはいないかとのことでした。でもとにかく読んでよかったなと思った本でした。

次に、今読んでいる「教師のための数学入門」。私共は、昔数学を学んだ時、ただそれぞれの部門を学んで計算することに集中したような気がします。数学全般にわたっての見渡しというようなことは少なかったと思いますが、遠山さんの本には、いつも

高所からの展望が与えられるような気がいたします。この本も、ところどころ私の知らない難しい数学が出てはきますが、数学教育や関数概念についての広い展望を与えてくれるようです。

さて、私共の勉強は牛の歩みのごとく、何程の本も読めなかったのですが、忙しい中を勉強しようという意欲だけは盛んです。そして家族的な親しみやすいグループです。どうぞ皆様お気軽に御参加下さいませ。

オートマトンについて

(18年) 加藤 緑

オートマトン？ 聞きなれない言葉だと思える方も多いかも知れません。これはひとりで動くものという意味のギリシャ語を語源とし、複雑なからくりをもった自動人形を意味するのに用いられていたようですが、一般に自動機械と訳されています。しかし最近では自動という意味を人間の手足に代る役目をするというのではなく、人間の頭脳のはたらきを代行させるというように解釈し、そのような動作を行なう自動機械という新しいニュアンスで用いられるようになってきました。この場合脳の生理学的なはたらきは物理的な回路の動作に、また思考過程は計算機のプログラムに対応しているといえましょうか。現に神経回路網の動作の解析や人間の学習過程の解析などが、人間の機能を解明し、それを機械に反映させるための基礎的な研究として行われております。

こういう意味でオートマトンと呼ばれるものにはどのようなものがあるのでしょうか。簡単なものでは電車の切符や煙草などの自動販売機、もっと複雑なものでは交換手の判断機能を自動化した電話交換機などがこれに属します。しかし何といても最も複雑な動作をするオートマトンは電子計算機（自動計算機というべきところでしょうが現在一般に用いられているのはトランジスタやパラメトロンを用いた電子計算機なのでこうしました。）でしょう。

実際最近の電子計算機の発達は目覚ましく、単に数値計算を行わせるだけでなく色々な論理判断を行わせ、数学の定理の証明や作曲、あるいは各種のシミュレーションなどに用いられるようになってきました。

最近のオートマトンに関する大きな課題としては文字や音声のボタン認識、言語翻訳、情報検索などがあります。そしてこれらを実現する装置の中心になっているのも電子計算機です。

ボタン認識は人間に比べて電子計算機が最も劣っている面であるといわれていますが、各方面で活潑に研究が行われており、とくに文字認識の場合、特殊な字形を対象とするものについては印刷した文字を磁氣的または光学的に読取る装置がすでに実用

になっております。

音声の識別については、たとえば音声は機械を通してタイプされた文字となってくるような装置の実現が一つの目標となりましょう。これに関する比較的簡単な実験としては電話機のダイヤル操作の代りに発音した数字を聞き分けることが行われております。しかし音声パタンの有する複雑さによってその識別については困難な点が多く、やっと単一の母音、子音が識別できる段階で、言葉や文章はこれからというところですので。これに比べますと機械に入っている情報から音声を合成する問題は比較的容易で各方面で意欲的な研究が行われていますが、まだ実用の段階には達していないようです。

言語の翻訳は非常に大容量の情報を扱う仕事ですから翻訳の速度やほう大な辞書を格納しておく記憶容量が問題になってきますが、これらは最近の計算機の能力の向上によってかなり解決されてきたようです。しかし単語対単語の対応を考える場合でさえ多義語や多品詞語の取扱いというような意味上の問題があり、またとくに日本語と欧米語間の翻訳に際しては単語の順序を変えるなど文章の分析が問題となってきますので実用までにはまだまだ解決すべきことが多いようです。

情報検索は最初図書館などで多くの資料の中から自分に必要なものを探し出すために手作業で、あるいは簡単な機械を用いて始められたものです。しかしこの分野でも電子計算機が一般に用いられるようになってきますと、単に要求される論文や特許など資料そのものをひき出すという意味の検索からさらに、必要とする fact を探し出す検索へと進む傾向にあります。また検索のために見出し（一般に英数字コード）をつける代りに資料の中に含まれている自然言語そのものを見出しとして用いる考え方も盛んになってきました。そのためここでも言語翻訳の場合と同様に言語の構造や法則の解析が必要になってきました。

このような応用面の研究の他にオートマトン全体に通ずる一般的な理論体系を確立しようという試みも10年位前からなされてきました。この理論においては人間や機械のはたらきを入力と出力の関係という形で抽象化して考えます。そして入力と出力の対応関係によってオートマトンの内部状態を区別しますが、内部状態が有限のものを有限オートマトンと呼び、無限個の状態をもつオートマトンを最初の創案者の名をとってチューリング機械といっております。有限オートマトンの理論ではオートマトンを一つの暗箱と見做しその機能を外から調べるためにはどのような入力系列を加えてやればよいかとか、あるいはどのような入力系列がオートマトンで区別できるかという問題を取扱っています。実際の機械は皆有限オートマトンと考えられますが、理論的な立場からは無限のものを取扱う必要が生じそのために有限の内部状態と無限に長いテープ状の外部記憶をもった架空の機械であるチューリング機械が考えられました。

以上甚だ雑ばくながらオートマトンという言葉の内容について御紹介いたしました。関連する分野はかなり広くしかも未開拓の問題も多いのでこれから先の発展が期待されます。

参考文献

- 高橋秀俊 「オートマトンとは」 電気通信学会誌46巻11号
 室賀三郎 「オートマトン入門」 現代エレクトロニクス選書36 共立出版

逐次決定過程について

(7年) 中屋澄子

機械が動いているときこれを故障しないように維持する整備を保守といい、故障している機械を動くようにする整備を修理という。いま保守、修理とも、安価なものが高価なもの2通りあるとする。安い保守を M_C 、高い保守を M_E 、安い修理を R_C 、高い修理を R_E とし、2つの状態を考える。状態1 機械が動いている。状態2 機械が故障している、とする。

| | M_C | M_E |
|---------------------------------|---------------|---------------|
| 時間 dt の間に状態1から状態2に変わる確率 | $2 dt$ | dt |
| 状態1にあるときの単位時間当りの収益 | 5万円 | 2万円 |
| | R_C | R_E |
| 時間 dt 間に状態2から状態1に変わる確率 | $2 dt$ | $3 dt$ |
| 状態2にあるときの単位時間当りの経費 (利益で考えると) | 2万円 (-2万円) | 3万円 (-3万円) |

長期間に亘っての利益を最大にするには保守と修理をどのように選べばよいかを考えてみよう。

政策は4通りある。

- 政策1 (M_C, R_C)
 政策2 (M_C, R_E)
 政策3 (M_E, R_C)
 政策4 (M_E, R_E)

時間 dt の間に状態 i から、状態 j に移る確率を P_{ij} で表わせば、政策1の場合には $P_{11}=1-2 dt, P_{12}=2 dt, P_{21}=2 dt, P_{22}=1-2 dt$ である。政策 k の推移行列を P_k で表わせば $P_1 = \begin{pmatrix} 1-2 dt & 2 dt \\ 2 dt & 1-2 dt \end{pmatrix}$ である。同様に

$$P_2 = \begin{pmatrix} 1-2 dt & 2 dt \\ 3 dt & 1-3 dt \end{pmatrix}, P_3 = \begin{pmatrix} 1-dt & dt \\ 2 dt & 1-2 dt \end{pmatrix}, P_4 = \begin{pmatrix} 1-dt & dt \\ 3 dt & 1-3 dt \end{pmatrix}$$

$a_{ij} = \lim_{dt \rightarrow 0} (P_{ij} - \delta_{ij}) / dt$ が定数のとき $A = (a_{ij})$ は微分行列である。政策 k の微分行列を A_k とすれば

$$A_1 = \begin{pmatrix} -2 & 2 \\ 2 & -2 \end{pmatrix}, A_2 = \begin{pmatrix} -2 & 2 \\ 3 & -3 \end{pmatrix}, A_3 = \begin{pmatrix} -1 & 1 \\ 2 & -2 \end{pmatrix}, A_4 = \begin{pmatrix} -1 & 1 \\ 3 & -3 \end{pmatrix}$$

政策 k の利益の行列を Q_k とすれば

$$Q_1 = \begin{pmatrix} 5 \\ -2 \end{pmatrix}, Q_2 = \begin{pmatrix} 5 \\ -3 \end{pmatrix}, Q_3 = \begin{pmatrix} 3 \\ -2 \end{pmatrix}, Q_4 = \begin{pmatrix} 3 \\ -3 \end{pmatrix}$$

これらをもとにして最適な政策を求めるために値決定の演算、政策改良の手順を考える。

値決定演算

一般に状態の数を N とし定常状態において、政策 i における Δt 間の報酬を $q_i dt$ 、 i から出発し最適政策を用いたときの t 時間中の全期待報酬を $v_i(t)$ とすると

$$v_i(t + \Delta t) = q_i \Delta t + \sum_{j=1}^N p_{ij} v_j(t)$$

であるから

$$\frac{v_i(t + \Delta t) - v_i(t)}{\Delta t} = q_i + \sum_{j=1}^N \left(\frac{p_{ij} - \delta_{ij}}{\Delta t} \right) v_j(t)$$

$\Delta t \rightarrow 0$ のとき

$$\frac{dv_i(t)}{dt} = q_i + \sum_{j=1}^N a_{ij} v_j(t)$$

t が大のとき近似的に $v_i(t) = v_i + gt$ の形で表わすことが出来る。 v_i は t に無関係な値で、 g は定常状態における単位時間当りの平均報酬である。これを代入すると

$$g = q_i + \sum_{j=1}^N a_{ij} (v_j + gt) \quad \left(\sum_{j=1}^N a_{ij} = 0 \right)$$

$$= q_i + \sum_{j=1}^N a_{ij} v_j \quad (i=1, 2, \dots, N)$$

この方程式は N あり、未知数は $N+1$ であるが、 $q_i + \sum_{j=1}^N a_{ij} (v_j + c) = q_i + \sum_{j=1}^N a_{ij} v_j + c \sum_{j=1}^N a_{ij}$ であるから各 v_j は相対的な値だけを考えればよいので、 v_j のうち1つを0とおけば

解くことが出来る。

以上の解法により各政策について、 g と v_j (その中1つは0) の値の組が定まるから、その中最大の g が得られるような政策を見つけ出すように政策を改良しなければならない。

政策改良の手順

任意の政策 A の方程式を解き g^A, v_j^A を求める。この値を政策 B に代入したとき

$$q_i^B + \sum_{j=1}^N a_{ij}^B v_j^A \geq q_i^A + \sum_{j=1}^N a_{ij}^A v_j^A \text{ が成り立つならば B は A よりよい政策でこのとき}$$

$g^B \geq g^A$ が成り立つ。

直接収益が最大であるような政策 A から出発して方程式を解き、 g^A と v_j^A の値を求め、その値を代入して他の政策の利益を求め、その中最大となるような政策 B を選べば $g^B \geq g^A$ である。次に政策 B の方程式を解き今と同じことをくり返すと、最後に g^L が最大であるような政策 L に収束することが証明される。

以上の一般的理論を開いて前の機械保守の問題を解いてみよう。利益の行列のうち最大のものは Q_1 であるから政策 1 から出発する。

$$g = 5 - 2v_1 + 2v_2$$

$$g = -2 + 2v_1 - 2v_2$$

$v_2 = 0$ とおいて解くと

$$\stackrel{(1)}{g} = 1.5, v_1 = 1.75, v_2 = 0$$

この値を代入して各政策に対する g の値を計算してみると

$$Q_1 = \begin{pmatrix} 1.5 \\ 1.5 \end{pmatrix}, Q_2 = \begin{pmatrix} 1.5 \\ 2.25 \end{pmatrix}, Q_3 = \begin{pmatrix} 1.25 \\ 1.5 \end{pmatrix}, Q_4 = \begin{pmatrix} 1.25 \\ 2.25 \end{pmatrix}$$

政策 2 を選べばよい。

$$g = 5 - 2v_1 + 2v_2$$

$$g = -3 + 3v_1 - 3v_2$$

これを解くと $g = 1.8, v_1 = 1.6, v_2 = 0$ となりこの値を代入してみると

$$Q_1 = \begin{pmatrix} 1.8 \\ 1.2 \end{pmatrix}, Q_2 = \begin{pmatrix} 1.8 \\ 1.8 \end{pmatrix}, Q_3 = \begin{pmatrix} 1.4 \\ 1.2 \end{pmatrix}, Q_4 = \begin{pmatrix} 1.4 \\ 1.8 \end{pmatrix}$$

やはり Q_2 が最大であるから、政策 B が最適政策である。保守は安い方、修理は高い方を選ぶべきである。長い期間においては単位時間に1万8千円の利益があると期待できる。

定常確率分布 (極限確率分布) のベクトルを、 $\pi = [\pi_1, \pi_2, \dots, \pi_N]$ とすれば $\pi \cdot A = 0$ である政策 2 において

$$-2\pi_1 + 3\pi_2 = 0$$

$$\pi_1 + \pi_2 = 0$$

$$\text{を解いて } \pi_1 = \frac{3}{5}, \pi_2 = \frac{2}{5}$$

定常確率分布は $\pi_1 = \frac{3}{5}, \pi_2 = \frac{2}{5}$ であるから長い期間において状態 1 (機械が動いている) にある時間はその $\frac{3}{5}$, 状態 2 (機械が故障している) にある時間は $\frac{2}{5}$ である。

参考文献

[1] OR-Centar, MLT; Note on Operations Research, 1959.

[2] R. A. Howard; Dynamic Programing and Markov Process, 1960.

未 開 の 功 罪

(11年) 花 岡 松 枝

カメルーンから南ローデシアのソールスグリー迄旅して直面した現代のアフリカの姿二つ。

其一。カメルーンのドアア空航を飛立つとすぐホステスが乗客票をくれた。旅券の通り国籍その他を記入するのだ。

私が書入れていると五人位の回教服姿のアフリカ紳士達が私を取りまいた。「書入れてくれとの事らしい。字が書けないらしいかららしい。

彼等の旅券を見てこれが彼等の国々の公文書かと驚いたのは私。

年令 Vers 20才 (凡そ20才)

出生地 Ver Uganda

すぐに凡そ、殆、大体……。自分は一体何才なのか、どこで生れたのか、それも知らずに陽気に生きている、アフリカ人は大層陽気だ。年令等そんなどうでもよいではないか。自分達のアフリカを旅しているのに！ と云う所かもしれない。戸籍にしばらく生きて行くのは何のために必要なのだろう。そのために人類が受けている生きるための困難さと利益とは天秤にかけたらどうなるのだろう。

世界国家の成立が人類終局の目的であるとすれば現代アフリカの姿の方が近いのかもしれない。各地の野性の動物にはどうも国籍なんかないらしい。

かくても生きて行けるのだ！ この現実を私は大変たのしく思った。そして所謂先進国の援助の指導なる物がこの様な未開の中に明るく生きている人々に幸をそえるのかな考えた。

文明なる物の姿は何か定義があるのかな、若しあるとすれば地球上の人類と名の付

く生物が同じ方向にそれに向って進まねばならないのかな。誠に不思議である。

パスカルではないが「考える葦」なのだから大きな意味で私達は本当に考えて生きねばならぬと私は思う。私達の日本は文明国のシンガリに位するらしいが（住居、導路福利等に於ては）世界に冠たる重工業の国日本に生れ日本人としてその習慣になれ、これが当然だと思って生きているのかもしれない。このマンネリズムに沈溺して生きているにすぎないのだと云う事になれば考えて見るべきだと思う。何かあるべき姿なのだろう。

其二、現在国際的にローデシアの人種差別問題が論ぜられている。ニュースに接する度に思い当る。

交通票識に牛の顔があったのを思い出す。

交通事故で被害者が白人の時は最高の保証額次が牛、黒人はその次となると明かに黒人は牛以下に評価されている。日本では男女共学をまだ論じている人もいる様だがローデシアでは白黒共学が禁じられている。黒人の入れないホテル、アパート等、当然の様に差別の存在している国だった。

国連の人種平等の精神の下では許される国ではない様だ。種々の理由もある様だがとても日本人の神経には分らぬ事が多い様だ。

黒人に云わせればアフリカは黒人の地だそこに白人（アングロサソン）が来て黒人を差別するとは何事だ。

この地の白人に云わせればアフリカが今日迄になったのはリビングストーンその他の我等の先祖が来たからこそで若しそれがなければジャングルの中の野獣と変らない姿をしつづけていた黒人なのだ。

何れに軍ばいが上るのは私は知らない。大きな世界の問題である事は確からしい。

では何故アフリカがこんなにも現代文明から遠いのであろうか。

私に云わせればアフリカは余りにも人類の生棲に恵まれた地であったのだ。

満腹感でよいのならジャングルには常に食糧が有る。一年中何かの実が。スコールは乾期でもサバク以外は毎日降る。飲料水には困らない、気温は暑い所が多いから別に寒さと戦うための衣類は要らない。少数の人喰人種を除いては原始的な弓矢で鳥獣も食用に出来る。となればこんな楽土に先祖代々何千年何万年生きて来る事の出来た天然に恵まれた黒人が現代文明遠いのも当然である。

必要は発明の母！ とすれば寒さに打撃つため次々と衣類を発明し、暖を保つために住居も漸次発達した。食糧の依存も考えなければ一年中実っている物はない。こんな地に何千年何万年生きねばならなかった人類と同じ筈がない。

所謂文明人は全人類の三分の一である。

三分の二の人類はアフリカ東南アジア、南米等およそ現代文明から遠い生活らしい。とすれば多数決から云っても人類の本来の姿はどちらなのだろう。余り考えると頭がおかしくなる。

必要は発明の母を通り越して無精は発明の母！ まで来ているものが我々の生活だ。

オートメーション、確かに能率から云えば素晴らしいが人の常力を省くと云うのが文明の発達であるとすれば多に如何にして労力的な無精をきめ込むかと智慧をしぼる所に或意味の向上があるのかもしれない。

とすれば現代科学文明の進みつつある方向のみが絶対唯一の人類の進むべき道なのかな。私には分らない。アフリカしかも黒アフリカ一番近代文明から取除かれた人々の生活は私に他では得られない偉大な何物かを教えてくれた。

東京の生活！ これはあるべき姿なのだろうか？ スモッグ禍！ 交通禍！ 等々何所かで何かのネズが狂っている様に感じられて来る。

さりとてあのアフリカの原始に近い姿があるべき姿とも思われぬ。

余り考えないで世界の何かの機関があるべき人類の道を示してくれるのを待望した方がよさそうだ。

図書館の窓口から（科学技術雑観）

（10年）田中隆子

池野さんから図書館のことも書いてくれと云われて、簡単に引受けたものの、さてペンを取ってみて、はたと行きづまった。戦後、新生日本の民主化の旗を高くかかげて、新設された国立国会図書館に、「何となく」捧職してから、もはや18年近くになる。「真理が我らを自由にする」（国立国会図書館法前文）と云う高い理想のもとに発足した図書館も、現実の社会の移り変わりの中で、理想とは程遠く、実際現場で働いている私達は、毎日の業務の中で「こうすれば、もっと国民の為の図書館になるのだが」と思いながらも、予算の壁とか、上層部のおもわくとかにぶつかって、勤労意欲も下低させられがちである。そんなことをいくら書いてみても、図書館そのもの、社会的地位が、それ程認められていない現実からみて、それは単なるグチとしかならないであろうし、かと云って、現実の図書館はそのままにして、国立国会図書館建設の精神をうたいあげてみても、これまた、あまり意味のあることとも思われぬ。それで現在、科学技術課に席をおく関係上、科学技術について、いろいろ考えさせられることが多いので図書館の窓口を通じて見た、科学技術の在り方について、いささか

述べてみたいと思う。

1口に科学技術と云っても、種々な解釈がなされていることは、周知の通りである。根本の所では、科学を自然科学のみを考えるか、人文・社会をも含めた科学全般を考えるかがある。今国会に提出されようとして、見送りとなった「科学技術基本法」について云うならば、1965年12月1日に、科学技術会議によって、発表された「法案要領」によると、「国は科学技術の研究を推進するにあたっては、優秀な人材の確保を図り、独創性と合理性が尊重される社会環境をつくり、自然科学・人文・社会科学の各部門の調和のとれた発展に努めなければならない」とある通り、まことに、學術の総ての部門の調和のある発展こそは、それを発明発見した人類の、幸福にのみ役立つ為の必要不可欠の条件であろう。しかしながら、政府与党の部に人文・社会科学を含めることに強硬な反対意見があって、今回の法案提出が見送られた、と聞いている。このように、一般には、狭義の意味に使われているようである。

私の属している科学技術課は、参考書誌部という部の1課で、「参考」とは利用者の質問に答え、資料を探し出す手助けをすること、「書誌」は資料を探し出す手引となる目録の作製を意味してゐる。この部には、法律政治課・経済社会課・人文課等等8つの課があって、各その守備範囲によってわかれている。この中の1つが科学技術課であるから、自然科学と技術(工学・工業)とを意味するものであることは当然である。8つの課でうちの1つが科技課というと、人文・社会の方に傾いているように見えるが、さにあらず。予算・人員の面では、物すごいアンバランスがある。即ち、資料購入費は、科技の1億円に対して、その他は全部合せて3000万円・人員にしても、他課は10名前後であるのに、科技課は48名という工合である。このようなアンバランスが出来たのは、それなりの理由がある。そして、それは図書館の内部事情のみによるのではなくて、社会の要請、内至はそれを背景とした国の政策によるものである。即ち、32年、当時の日本の高度経済成長の国策による、技術革新の波によって、P・Bレポート(米国政府の研究レポート。第2次大戦後、ドイツを主とする敗戦国から占領した研究文献を発行したのが端緒)原子力関係資料を中心とする資料購入費が急速にふくれ上った。1時期、年間1億2000万円の購入費、人員70名。部にする構想もあったが、その後の経済の曲り角に直面して、37年「部」の構想は立ち消えて、規模を縮小して現在に至っている。

私の仕事は、通称レファレンサーと云われるもので、利用者の資料検索のお手伝いをする事が主で、云わば、接客業であるが、その他に、書誌を作ること(目下、数表の総合目録を編さん中)それに購入資料の選択等である。利用者とも云っても、それこそピンからキリまで。入館資格が20歳以上となっているので、他の公共図書館のように高校以下の生徒は来ないが、夏休みの終り頃になると、教育ママ達が、子供の宿題を電話で聞いて来る。「図書館は問題を教える所ではなく、資料を紹介する所だ」と

いくら説明しても、そのものズバリの解答を要求して、私達を困らせる。時には「先生がこう教えたが、それで正しいのか」という質問さえ受け、何時の間に「先生の先生」になったのかと、苦笑させられることもある。こんなのは少数であるが、大学生の卒論の手伝いは大分させられる。そんな時は、資料そのものは紹介しないで資料調査の方法を教えている。しかし、何と云っても、一番多いのは企業からの問合せである。文献や(半政府出資機関である日本科学技術情報センターは別としても、企業の研究所の必要とする資料を調査し、複写したり、翻訳したりする業者が、東京だけでも20社は下らないであろう)に頼めば、1件、1万円も2万円もするような、調査依頼を受けることもある。企業はこのようなにして、国民の税金で建てられた図書館を、企業の利益に直接結び付くやり方で、利用しているのである。現に常時12・3社の文献やが出入りして、日に300件近くの資料を借り出してゆく。広く国民一般にサービスを行う筈である国立の図書館が、業者におまぐられ、私企業の利権追及に奉仕している現状を、私達職員は、これでいいのだらうかと、疑問を感じながら、どうすることも出来ないでいる。また、一方、科学技術課の急激な膨張は、図書館の陽々にまで、種々な歪を与えている。科学技術関係雑誌1万種を目標に、あわて、発の注した結果、工学の「橋梁」のつもりの「Bridge」が、実際にきてみたら、トランプブリョジであった、という笑い話まである。しかしこれを廃棄処分をする為には、もはや笑い話ではすまされない。その雑誌が通過して来た総ての課に、影響を及ぼすことになるからだ。このようなケースが沢山起ると、他課の日常業務を変更せしめる程の影響が表われて来る。また、資料の急激な増加に伴い、利用者の複写の要求も豊上りに上昇するが、複写係の人員は一向に増えないので、増加分は超過勤務と云うことになる。以上はほんの例にすぎないが、科学技術課の発展が、図書館の機能をもゆがめている現状はあたかも、高度政策が、庶民の日常生活をなやます公害や、物価高という結果をもたらすのににている。科学技術のすばらしい発展は、夢物語であった月旅行を可能にし、人間の寿命を延ばし、人類に数多くの幸福をもたらしたと同時に、交通戦争、公害、原子力爆弾等、昔の人の全く知らなかった不幸を作り出した。それは1つの図書館の科学技術課の発展のしかたにも通ずることなのかと、しみじみ思う。

これを書きかけて、新聞に目をやると(日本経済新聞5月25日夕刊)1面に2号活字で、「行監委科学技術振興で近く意見書——基本法案を批判か——機構整備 自然科学中心に」とあるのが、目にはいった。内容は、行政監理委員会が意見書をまとめるに当たって、政府案の「科学技術基本法」を批判し、人文科学を閉め出し、科学技術行政機構の整備を図る考えを、打出したものである。政府原案に対しても、民主的な科学者の強い反対意見(例へば、岩波講座 現代「科学・技術と現代」科学技術振興10ヶ年計画をめぐって、p. 348~353。日本科学者会議編「科学技術基本法資料」の

はしがき)が出されているのに、更に、人文科学の閉め出し、行政の強化が出されるようではと、身近かなわが科学技術課の現状から見ても、暗い気持になる。しかし、同日の「赤旗」には「日本科学者会議 第1回大会——28日、東京で開催」の見出しで、大会では科学技術基本法反対に関連した特別報告がされることを、報じているのを見て、健全な科学者の方々の活発な動きに、いささか安堵の胸をなでおろした。

科学技術は単に、学者や研究者だけのものではない。自然の法則を追及する筈の自然科学が、技術と結び付いた時、それはまことに社会をゆり動かし、人類の歴史をかえて行く重要な因子になることは、今までの歴史が教えている。「現代の悲劇の1つは、人間の知的能力をこうも高め、福利をかちうこうも大きな力となっている科学が、大規模な人殺しのための兵器の発展へ向けられていることである」(岩波新書「近代科学の歩み」P. 203)とイギリスの原子物理学者オリファントをなげかせたように、かくして科学は人類の歴史そのものを抹殺する可能性さえ持つに到っている。私は図書館の正常な機能をゆがめてしまった科学技術課の中であって、科学技術の健全な発展を願わずにはおられない。

私のあゆみ

(9年) 山下タミ

女の子が女学校を出てから4年も勉強して、どうなるという時代に育った私たちは、女性には家庭にはいるもの、立派な家庭をつくるものという教育が身にしみてか、私もご多聞にもれず、3月25日が卒業式その3日後の28日結婚式というスピードで家庭の人となりました。そして子どもが長じて学校にはいる頃は、自分の子どもの教育も出来なくて、他人のお子さん教育どころでないと言って、家庭の主婦、子どもの母として責任を果たそうと思ったものでした。ところが戦後ひっぱり出されるままに教師になってしまいました。この教師でいる間にはPTA関係を担当させられたり、東京都青少年委員の委嘱をうけたり、武蔵野市青少年問題協議会の映画審議会委員など仰せつがっている間に、何とはなしに社会教育に興味を持ち出していました。昭和34年社会教育法改正に伴ない、各区に社会教育主事必要となり、35年8月から杉並区に於いて社会教育主事として社会教育の推進をはじめました——社会教育のむつかしさをかこちながら——。

学校教育は教える立場の人、教えられる方にも一定の巾があります。それも余り広くない巾であります。そしてカリキュラムもあります。がしかし社会教育は不特定な人が相手であり、学歴も境遇もまちまちですし、カリキュラムというものもなく、

めまぐるしく変ぼうする社会も動きをふまえた上での事業を考えて行くむつかしさがあります。

殊に婦人が参政権を得て20年。テレビ・ラジオの普及により、又会合にもよく出席出来るようになり、学習活動にも参加する人が多くなり、その上PTA活動も盛んになって、婦人は大きく成長しました。ところが都会のインテリと呼ばれる婦人の一部には、それらの学習が身につかず、頭でっかちになり勝ちという問題も課題としてかかえています。が役所というところの空気も少しは、わかりもう少しがんばって見たいという時に、半ば至上命令的に、杉並区立高南中学校の校長という重責を負わされて、その重さを肩にずっしりと感じつつヨタヨタ歩み始めています。東京都には中学校が500校位ありますが、婦人校長が現在3人で、その内2人が東京女子大卒(1人は英専)です。私の力は小さいものですが、先生方、先輩お友だちの祈りに支えらる、この女子大に育てられた婦人校長として、婦人であること、クリスチャンであることを忘れずに歩みたいと思います。どうぞ今後ともよろしくお力添え下さい。

研究室の横顔

(35年) 大久保京子

数学研究室という顔を正面から見ると、その目鼻立ちをととのえているのは、小河原・中谷・中村・根岸・笹尾・松原の諸先生方と助手の橋詰さんに私である。この顔、正面から見るとなかなかの美男で、この分ならお見合写真はまづまづ通過というところ。とは言うものの人間、正面ばかりみていたのでは、深みも渋味もわからないから、ちょっと横をむいていただくことにしよう。

まづは、小河原先生、愛妻かつ愛犬家である。朝、奥様とお犬様アリ君と三人(?)お揃いで北門まで登校なさるお姿は円満そのもの。知る人ぞ知る心なごむ風景であるが、ちょっぴり犬君にやきもちの焼けることである。先生は似がお上手で研究室にも一枚ある。私などなにかのときには描いていただくようおねだりするつもりである。当研究室の主任ですからこの文章に関しても一度お検閲いただいた。

中谷先生こと通称タロちゃん教理学科はもとより文科系学生にも親しまれて一昨年には一年生と古本屋『タロー堂』なるものを開いてはりきていらっしやった。名テナーであることは勿論周知のことである。高い所と速い乗物はおきらいだそうですが案外そそっかしいところが我々凡人が親しみやすいところである。最近では牧伸二のテレビにかちりついて息子さんにしかられるそうである。

次が中村先生、数年先輩の人達に言わせると通称シンちゃんだそうである。ペレーを頭に愛車ルノーで御出校。昭和三年二月十九日が受洗なさった日だそうで、クリスマスでいらっしやる。テニスのお相手をお願いするとたゆまづうまづ、私達が『ネ』をあげるまで、根気よくハードトレーニングをして下さる。教専会のダンスパーティーの花形で、数学者はコチコチという東女以外の大衆(?)の方々の偏見を矯正して下さるから本当にありがたい。サトウサンペイばりのユーモアが先生の魅力というところ。

最近の根岸先生は、なんとなくおやさしい。同窓会の募金委員で大変御活躍である。先日の園遊会でも本部で放送係をなさっていらした。その根岸先生の失敗談二つ。連休明けの金曜日、一二時限の授業をケロリとお忘れたになった。木曜日とお思いになったそうだ。続いて、2、3日後今度はエンマ帖を教室にお忘れになった。根岸先生談「そんなに齡とったつもりはないんだけど……」それで、中谷先生のお言葉をつけ加えると「イヤ年齢のせいではありませんヨ。もりもり勉強なさってるからですヨ。ニュートンと同じでネ」。でも「若さのいたり」というのが一番てきとうですね。

高村先生は御主人ともどもドイツ留学中。長男を御出産なさって、恵一君とお名前をおつけになった。ドイツ流に読むと keiichi は解 I となるそうだ。

今年専任におなりになった松原先生、笹尾先生は残念ながら、まだ横顔を見せてくださらない。いっこうに横をおむきにならないから。そこでちょっと後姿を……。

松原先生は大学時代バスケットボールのキャプテンでいらしたそうですが、なにに興味がおありですかとうかがったら「子供のことで」とおっしゃった。「あるときパーというところに行ったんですが……」とあとにも先にも一度しかいらしたことがないらしいと憶測したのはこの私である。

女子大としては新しいタイプなのが笹尾先生。なんともワンパク小僧の感じが第一印象である。テニス、運転、スキー、とスポーツならなんでもござれのようなのだが、ビールの方もかなりのウデマエのようだ。がいしてワンパク小僧というのはテレ屋で素直で人がいいものだが、笹尾先生もこの例にもれなさそうだ。

研究室で一番若いのが助手の橋詰さん。たいへんたいへん素直で可愛らしく、ママによく働いてくださるから私のような人間とは名コンビと思っている。

最後に、ズケズケと横顔など遠慮なしに書かせていただいていたが、自分のことをたなにあげて偉い諸先生方に頭が上らなくなるのがせきのやま。朝10時に研究室にノコノコとオダワラからやって来て、研究室の仕事か学校の仕事か同窓会の仕事か教専会の仕事かクワイヤの仕事かなんかをやって、日頃研究室にもメイワクをかけていて、もともと頭の上らない私が、この位の文章を書いたって頭の高さはかわらないというものでしょうか？

ク ラ ス だ よ り

(6年卒) 豊 泉 し げ

熟田霞江様、卒業と同時に気象庁入り現在尚元気で勤続。三木隆様、高松聖イエス会牧師として伝道聖日参会者100人を越すという。上田フサ様、栄養大学助教授、学生時代弱かったのに今は日夜の激務にもめげず活躍、秘決はどうやら栄養らしい。氏家隆子様、筆不精の名人。益田原母様、樋口智恵様、御二人を失って7人のうち現在5人健在、筆者が女子学院勤務豊泉しげ。

(7年卒) 中 屋 澄 子

荒木恵美様、数年前から御病気のようですが消息がわかりません。もし御存知の方がおありでしたらお知らせ下さい。佐藤光子様。北海道の30年余りの教職生活に終止符をうたれ、昨年からは横浜に来て居られるよし、樋口千嘉様。桜光女学院を最後にやはり30年余りの教職から離れて現在は母上の御看病に御専念のよし、他の4人の方はお変わりないようで、お子様方も成長されて、それぞれのお仕事に励んで居られるようです。私も気ばかりは若いのですが、とうとう4人の孫をもつ身となりました。

(8年卒) 多 豊

卒業以来30年以上にもなりますので皆さん職場に家庭にベテランとして御活躍です。先づ関西方面では梅垣さん、仁保さん共に、お仕事にお励み、若山さんは英会話御勉強とか東京方面では鈴木つたさん、小山さんそれぞれの学校になくはならぬ存在ですし、森田さんは相変わらずお千手観音で驚き入るばかりです。中島さんは御主人のよきアシスタントとして御多忙、寺光さんは満点奥様の上女子大で数学も勉強中です。鈴木寿子さんは御病後の御主人ねたきりのお姑様に注ぐ涙ぐましい柱の御看病と伺います。どうぞ一日も早く家族健在で身心共に安らかな生活をなさいます様に心からお祈り致します。最後に私ですが、平野先生、小林先生、級の一人一人の方達の暖かい親心に手を取り足とりしていただき、やっとよちよち歩きをはじめました。大変ひねた世話のやける赤ん坊ですが感謝の気持で一ぱいです。本当に皆様有難うございました。

(9年卒) 藤 見 ヒ ロ

磯貝常子様 御主人様パリ国際経済会議に御出席の由、御長男は会社にお勤め。

小林正子様 御長女は昨年結婚され、お嬢様は美術大学で絵の御勉強中。

溝口雪恵様 御長男は東大物性研究所に御勤務、御次男は阪大大学院生。

松村睦子様 良き奥様として御多忙の毎日をお過しの由。

荻野しめ子様 御長男は御就職、末のお嬢様は天王寺高校在学中、昨夏御上京を機会にクラス会を開き、30年振りでも話に楽しい時を過しました。

鳥谷マツ子様 昨秋御上京を機会に平野先生のお宅でクラス会を開きました。

菅沼節子様 受験生と、御老齢のお母様のお世話で御多忙の毎日との事。

都筑ゆきえ様 御体がお悪かった由後元気にお勤めになられていることを祈りつつ近況の御知らせを待ってをります。時には御元気な顔をみせて下さい。

山下タミ子様 高南中学の校長先生に御就任、御活躍を期待してをります。

結城玉江様 新潟県立高校に御元気で御勤務の由。昨夏30年振りでクラス会に。

藤見ヒロ 今春次女結婚、三女は高校生。

(10年卒)

関根泰子 「子供が高校生以上にならなくては一人前といえない」とある友人にいわれたことがあります、下の子が高一で、やっと大人の仲間入りをしました。

杉田正子 年をとって元気になりました。皆様のおかげと感謝しています。調布学園に勤務しています。

奥田旭子 平凡な主婦業をつとめております。今年は、おかげさまで長女が女子大に入れて戴けまして感謝して居ります。

鈴木侑子 元気で光塩女子学院につとめています。安藤寿子さんは清泉女学院にお務めで大船に住み、たまの日曜日には練馬の家に帰られます。平松初枝さんは学校務めをやめて、のんびり親孝行をしておられます。

池野和歌子 狩野令子さんは、バスに乗車中事故にあい、骨折で入院中です。関真子さんは元気になりましたがまだ外出はされないようです。お孫さんが二人です。朝永領子さんは、御主人のノーベル賞受賞で喜びと同時にいそがしい日を送っておられます。5月におそろいでスエーデンにいかれまして。田中隆子さんは、国会図書館であいかかわらず、はりきって仕事をしておられます。私は目下失業中で貧乏ひまありの生活をしています。

(11年卒) 今 里 道 子

赤井、夜は都立日本橋高校昼は2つの学校を駆けまわっています。昨年は4つの学校の教師と定時制の専任と五足のわらじをはきました。藤森、毎日草取りして元気でおります。花岡、東邦大学で未来の医者と薬剤師の卵を育てております。堀、仕事(桜ヶ丘中学)と家庭と五分五分です。岩崎、相変わらずの主婦業です。川喜田、卒業以来殆んど無病息災で送ってきました。夜はよく寝て昼間はよくしゃべって之が私の健康法の様です。鈴木さんと一緒に川村学園に勤め鈴木さんを先輩としていつも力になって頂いています。武田、この春教員を止め主婦の生活に戻りました、何となく張合がなく早くふけこんでしまうのではないかと不安です。宇佐見、元気で先生(鷺宮高校)をしています。及川さんは札幌支部で同窓会のためにいろいろ御尽力頂いております。今里、家事に追われてばたばたしております。私共が学窓を出て今年は満30年、お互いに感慨深いこの頃です。

(12年卒) 片 岡 ヒ サ

早いもので私達のクラスも卒業して30日目になり来年は地方の方々にも出来るだけ上京していただいて記念の集りをしたいと東京におります方々と計画を進めております。卒業後すぐ先生になられた方、又更に国立大学で勉強をしてから先生になられた方等大学助教授、高校教師として5人の方が活躍していらっしゃいます。又更に医学を勉強され御夫妻で眼科医院を経営診療に専念されていらっしゃる方もあり、又早く家庭に入られました方々はもうお子様も立派に成長されお孫様がいらっしゃる方もあり境遇は皆違いますが卒業後間もなく求職された3人の方以外は皆健在で時折在京の者は母校に集って美しい校庭を眺めながら昔話をしています。

(13年卒) 吉 利 花 枝

昭和13年卒は小人数のクラスで今健在は4人です。神戸にお住いの上川(清水)さんは洋裁、俳句、書道等多趣味でいらっしゃいます。秋元(手塚)さんは男のお子さん2人。多賀(奥岡)さんは女1人男1人のお母さん。吉利(工富)は4人の子持。3人とも東京住いです。私達いづれも半世紀を生きぬいた者ですが気分だけは若いつもり、張り切って研究会に出席しています。

(14年卒) 堀 す み

森和子様 ずっと名古屋にお住まいで、金城中学の講師を続けておられます。
高瀬幸子様 東亜燃料にお勤めです。お嬢様は今年の5月に結婚されました。
堀すみ子 上州に住みついて長くなります。高校の講師をしています。
桜庭貴美子様、中山多賀子様 それぞれお元気にご活躍のことと思っています。

(15年卒) 乾 た み

清水千代様 昭和17年以来母校東洋英和女学院に勤務「英和中高の数学科になくてはならぬ重鎮。2人の男の子のお母様。

松田範様 卒業以来ずっと公立学校にお勤めのベテラン先生。現在新発田高校理数科で活躍中。

椿八千代様 阪大卒の才媛。現在京都朱雀高校の先生。冬休みに御主人と志賀高原にスキーに行かれたとか。

乾たみ 勤勉なクラスメートの中で1人講師(東洋英和)主婦兼業というところで。

(16年卒) 宗 像 君 子

福上寛子様 4年前から荻窪にお住まいで中学生の坊ちゃんと小学生のお嬢さんのよいお母様です。

樋口繁子様 香蘭の先生をお続けです。

柏原繁子様 大阪の高校の講師をしていらっしゃいます。

川松薫子様 お子様は2人。ご長男は高校3年です。

島田澄子様 関東学院六浦高校の数学の主任をしていらっしゃいます。

山田君子様 お子様の学校の心配もすっかりない所まで行かれ、落ち着いたよい奥様でいらっしゃいます。

桂田芳枝様 北大でお忙しく活躍していらっしゃいます。

宗像君子 2人の子供が来年は高校生になります。川村中学の講師をしています。

(19年卒) 倉 橋 澄 子

卒業20年を記念して、クラスで追分の研究会に参加したのは、もう一昨年のことになりました。

この3月12日に、卒業後はじめて御上京のI夫人をお迎えして、Y夫人のお宅でクラス会を開きました。それぞれの都合のよい時間ということで、入れ替り立ち替り参会致しましたので、在京のほとんどの方にお逢いになれたはずでした。ところが、この劇的であるべき再会が、「まあ、お久しぶり……」などという挨拶の間に、22年の空白が埋まり、寮でお別れの会をしたのが昨日のようで拍子抜けしたほどでした。

I夫人のお母様と私の母は同窓で、入学式の日、それこそ卒業以来の「御対面」ということがあって、よく分るものと不思議に思っておりましたのに……。この間のクラス会の感じでは、そう不思議なことではないとわかる年令になったようでした。

(22年 数学科卒) 寺 田 陽 子

「1. 若き日に、微分をば、覚えよと、教科書今我等を悩ます。

2. 愛の師よ、リミットをば、しばしおきて、若き日に、我等を眠らせ。」

19年入学、空腹と空腹に明け暮れた学生生活だったが、当時ハイテンだった我々は、上の如き替え歌を作ったりして、結構楽しく3年間を過した。黒々と迷彩が施された本館をバックに記念撮影して、22年3月卒業。爾来約20年、春秋2回のクラス会を繰り返して、我々は最早中年女性と化したのである。出世した級友を御披露すると、慶大法学部助教授の人見先生、津田熟大仏文講師の松浦先生、テレビにPTAに活躍の金沢の石野夫人、お料理教室を開いている高橋先生等。その他は学校の先生か、家庭に納まり、子供の合計は50余人。乞御期待!

(22年 数学専攻部卒) 吉 川 喜 久 子

全員37名皆元気で夫々の場にて活躍中。

御主人の留学或は転任にて多くの方がアメリカに渡られたが現在は3名在米中。

もっぱら家事に専念の方が17名。あとの方々は夫々に職場にて大活躍中。不幸にも御主人に先立たれた方は3名もあられますが今はすっかり元気になられ育児に仕事に精出されています。

卒業後しばらくつづいたクラス会も途中で生活がだんだん忙しくなり遂にとだえてしまいました。ついこの2年前何人かの集りからクラスの通信誌を始めることを思い立ち3回目を先日発行しました。地方の方々のうれしいお便りもいただける様になり、無駄でなかったと思います。これを足がかりにますます親しい交りを進めることが出来れば大変嬉しいことでしょう。

(23年卒) 段 真 璃 子

毎年桜の咲く頃になるとホームカミングのご通知を頂いて連休の1日をふらっと出かけて楽しい一時をすごして帰るのですが、今年は3月早々同窓会の総会で園遊会の切符を渡され23年度数学科卒業総勢75名で封筒の上書、切符の催促と5月3日の当日迄用事に追いまわされてしまいました。でも今年は全部の方にお返事を願った卒業以来始めてというなつかしいお便りを頂き地方の方も遙かにこの日の成功を祈ってくださいました。当日は20名近くの方がライシャワー館の芝生の土で北海道の札幌から出ていらっしゃったお友達等も交えてきれいに晴れ上がった五月晴れの一時を過ぎました。

(24年卒) 大 陽 寺 喜 代 子

終戦後の混乱し切った時代に、何物かを求めて集り、戦争中の空白を何とか取りもどそうと、しゃにむに勉強したり、遊んだりした学生時代を送りました私達も、卒業して早や17年の月日が流れてしまいました。

お子様達が幼かったり、御主人のお勤めの都合で地方に行かれたり、又クラス会を積極的に開いて下さる方もなかったり、等々で個人的なお附会はある、仲々クラスとして集るチャンスを今まで持つ事の少い私達でした。現在では生活もやや安定してまいりましたし、根岸さん、北見さんも学校にいらっしゃいますので、この方達を中心にこの際お互いの近況を伝え合せて、旧交を暖めたいものでございますね。皆様のお協力をお願い申し上げます。今年の園遊会は10人程お集りのようでした。木村さん、常葉さんの様に外地に永くお住いの方、又地方にいらっしゃる方々の御様子、お子様の教育、御主人の飼育法中年以後の主婦のレジャー等々お話し合いたいものでございます。

(26年卒) 権 名 智 子

4月10日、おさと帰り中の中山さん(旧大場さん、在米)を迎え、中谷先生の御出席をいただいて、渋谷「南国酒家」で、15名の集りを得、級会をいたとしました。

私共の在学時と、ちっともお褒りにならぬお元気な中谷先生を囲んで、すっかり学生気分になっておりましたら、「卒業して、丁度、15年目ですね。」との先生のお言葉。そういえば、やっど、卒業後の年月に思至るにぎやかな、集りでございました。先生からは、男女共学後の女子大、入試に数学を課すことについて、卒業生や、学校の考え方、そして又、御出席いただけなかった先生方の御近況、今後の講習の予定などについて、お話があり、楽しいひとときをすごしました。

(28年卒) 水 野 明 子

色とりどりのつつじが、緑の芝生に映え、深い紫の藤の花が、しっとり美しい5月、2人の子供を幼児グループへ送った後、私は1人で、ゆっくり、ゆっくり女子大の木立の下を散歩するのが好きである。桜の老木の下をぬけ、もみじやヒマラヤしだのこんもりとした大木の下にたたずむと、何も言えない幸福感に満たされる。此の4月から何年ぶりかで、やっど私1人のわずかな時間が出来る様になった。1日のうちのほんの少しの時間ではあるが、何かほっとした楽しい気分一杯になる。これからは少しずつ、したい事も出来る様になるでしょうし、自分の持っているささやかな能力を、私なりに発揮して、くいのない人生を送って行きたいとしみじみ考えたりします。女の幸せはやはり安定した幸福な家庭を基盤として、其の上に立ち、自分の個性を趣味なりに仕事なりの形として、一生を通して、はぐくみ育て「およそ真なること」の探求に努力する事ではないかと思う。

—木立の下で—

(35年卒) 大 久 保 京 子

昭和35年のメンバーは総勢27名、「数ノ子会」と命名され、現在では、家庭に職場にかなりの経験者として活躍中です。年に1回、10月の最後の日曜日をクラス会の日と決めて皆その日を楽しみにしております。27名という小人数ですからクラス内のことは右から左へなんでも連絡があり、誰1人、病人もなく皆元気に毎日を送っております。学生時代「あの人がお母さんに……」など想像できない程ワンパクだった人達も今はすっかり良きママとなって担任でした中谷先生をホッとさせています。仕事のとりこになってはきっている人達も、もうその道ではベテランになって、そろそろ他の職場からのひきぬきもある様子。

家庭を持ちながらも仕事を続けている方も数人あって、みごとに家庭と仕事を両立させていらっしゃるのをみると努力の精神さえあればなんでも出来る現代に生きている私達の世代は本当に幸せだといったところです。

(37年卒) 田 辺 三 恵

卒業してから早や4年になり、月日のたつのは本当に早いものと驚かされます。

3年間にお世話になった小林先生もご退職され、淋しくなりました。私達の間にもこの4年間に大分変化がございました。クラス25名中、現在もう20名が結婚し、後の5名も、ただ今売り出し中です。新婚家庭が多いのですが赤ちゃんも全部で7名、今年中にはもっとふえる予定です。皆毎日赤ちゃんと奮闘、もう徴積も集論もまるで関係ない日々だそうです。反面、結婚後も仕事を続けている人、いわゆる共稼ぎが6

名ほど、やはりプログラマーが多く、仕事と家事との両立は大変のようです。外国にはただ今2名、ご主人の仕事の関係で渡米中です。学生時代と2、3年の就職時代、そして最近の主婦時代と私達のクラスもだんだん違った雰囲気を持ってきています。これからもどんどん変わっていく事でしょう。楽しみです。

(40年卒) 橋 詰 昭 子

卒業してから早くも1年経ちました。これまでの1年間は、私達が一番若いということで、何も出来なくてもある程度見過され、又自分でもその様な立場に甘えていた所が多分にあったと思いますが、今年からはそのんびりもしてられません。私達のクラス23名の内18名までが東京近辺に住んでおりますが、そのほとんどが会社及び研究所のプログラマーとして勤めております。訓練、実習期間を無事終了して、この春頃から本格的な仕事を受け持ち、おかげで残業も延びて忙しい毎日を過しているようでございます。それ以外では高校、出版社、大学研究室に2、3名ずつ就職しております。各々1年間の行事を一通り経験致しましたので、これからは実力を発揮できるのではないかと張り切って2年目のスタートをきりました。それぞれの職場や家庭で良き先輩を見習い努力し励んでいきたいと思っております。

(41年卒) 弘 中 良 子

木々の緑が目まぶしく輝き、さわやかな風が心を軽やかにしてくれる今日此頃ですが、朝から煌煌と輝く蛍光灯のもとで、外の天気の様子もわからず1日中会社の机に向っておりますと、とても、女子大の芝生、姫松、スロープがなつかしく、今さらながら4年間恵まれた自然の中で生活を送ることのできた幸せを感じております。さて、今年から皆様のお仲間入りをさせて頂くことになりました新卒クラスの紹介を致します。私共のクラスは稀に見る有能な人材に恵まれ、学友会に於る我がクラスの活躍振りはこの僅かな文面では到底言い尽すことの出来ないほど素晴らしいものでした。しかし、クラブに非常な情熱を傾けながらも決して学業は怠らず、どの授業でも最前列で熱心に教師と黒板を睨んでいるのが我がクラスの面面でした。昨年は経済界の不況から就職難と大いに心配されましたが、我々31名、一般の会社のプログラマー10名、研究室助手8名、教員7名と皆自分の希望する良い職場を得、今は夫々の分野で活躍を始めんと大いに胸を張らせております。1人前になるのはまだまだ先の話ですが2、3年先にはきっと職場にとって失い難い有能な人材となり惜しまれつつ家庭に入っていくことでしょう。ところで、私共は数専会をより一層発展させる為出来るだけお役に立ちたいと思っております。どうぞ何なりとお申し付け下さり、御指導下さいます様お願い致します。

石井 鈴 枝 さん の 横 顔 (16年卒) 奈 良 部 志 保 子

石井さんは昭和16年12月数学専攻部を卒業、通信省電気試験所(現電信電話公社電気通信研究所)に就職、37年退職されるまで20年間音響工学の研究に従事され、その間の成果をまとめられて37年3月には東京工大で工学博士の学位をとられました。現在は電気通信大学の助教授として研究のかたわら男子学生を相手に講義を持たれ、卒論の指導、就職の世話等に至るまで幅広く活躍しておられます。また最近「音響工学概論」という音響工学に関する本格的な教科書を出されましたが、これは同学の方々と共著となっているものの石井さんが実質的中心となってものをされた著書で、その権威については専門家の間で定評のあるところですよ。学生時代はスマートなスポーツ家で数専のバレーボールは石井さんの強烈なスマッシュで常に優勝をさらっておりました。昨今は格幅のいい貫録充分な姿になりましたが鍛めしい経歴から想像されるオッカナイ感じは全然なく、謙虚で会うといつもにここにことやや色黒の顔をほころばせておられます。このところ、ドライバーとして往年のスポーツ家のおもかげを残しておられます。ぼそぼそとしたしゃべり方は学生時代のままで、講義の際ききとりにくい折もありはしないかと思われませんが、時折遠慮のない「卒直な本当のこと」を言い放つこともかえて学生の人気を高め、頼りになる先生として慕われておられます。

工学部門での女子の進出は稀有であり、かかる石井さんの着実な活躍はわれわれ同窓の誇りであると同時に同性として心からの声援を禁じ得ません。

クラスだよりは、クラスの近況をお知らせするために、4月16日の幹事会の席で、各幹事に依頼し、また当日欠席の幹事には、書面でお願いして、送っていただいたものです。

これを読んで自分のクラスの情報のないつまらなさを味った方達には、申しわけなかったと思います。

各クラスの幹事は責任をもってほしいし、クラスのみなさんは、責任をもって、幹事をおくり出していただきたいと改めてお願いする次第です。

数専会をみんなのものにするために。

— にくまれぐち子 —

(連絡先) 豊島区目白5-16-13

山本 敦子 TEL (951) 6653

——同窓会募金に数専会の協力を——

——(6年) 豊 泉 し げ——

御承知のように母校東京女子大学では50周年記念事業として、牟礼の神学大学を校舎ごと5億7千万円で買い、更に研究本館、体育館の新築として5億円を計上しております。母校としては珍らしく大膽な買物をしたわけです。私共には想像も出来ませんが学校がここまで決意するのには相当の年月をかけ、良心的に、教育的に考えを練ったあげくの事と思います。資金計画の概要をみますと5億円は募金によるものとなっております。このうち1億円は父兄、同窓生、教職員となっておりますが内5千万円を同窓生として御引受けする事になりました。私共が数学科を4年制にというスローガンで運動をはじめ、皆様方からも数学科の図書費として多大の御寄付を仰ぎ高木先生の御尽力で現在のように立派な文理学部が出来たわけですが、そのほとりもまださめぬ時でありながら数専会としてもこの募金運動に積極的に参加したいと思います。文理学部の出来る時も私共の募金はほんの一部にしかすぎず学校としては多大の費用がかかったこと、そしてその後の維持にも相当の負担がある事は想像に難くありません、小人数制の理数科を維持するためにも今回の記念事業を出来る限り援助していただきたいとおもいます。同窓会では事業部、会員一般募金部とわけて夫々の部門で色々計画をしておられますが仲々5千万円という額には達しそうもありません。同窓会では声をからして次のように叫んでおられます。「一口1万円ですが1000円以下の小額でもかまいません御寄付はいただければ有難く頂戴いたします」と、会員部としては3,000万円が目標額でありますからクラスの目標額はクラス人数×3分の1万円という事になります。誰方も御忙がしい毎日でありますから心にはあっても寄付の手続きが面倒であろうと考えられます。クラスの幹事の方向とか智恵を絞ってこの目標額を突破出来るように御助けを御願ひ致します。クラス会の時、小額ずつでも集めるとかまたクラスの人に誰方にでもお合した時、住所、氏名卒業年度を書き400円を御預けすれば次月から400円ずつ郵便局が集めにきます。2年間で利子共1万円と云う事になります。預った方は面倒でもクラス幹事に報告し、お金は次の機会に御渡しすればいいわけです。幹事の方は同窓会に立替払いをしておいて下さるかまたはその旨報告して下されば適当な方法を考えてくださるとおもいます。尚数専会として募金委員に出ておりますのは次の方ですからいつでも何でもおっしゃってくだされば御相談に応じたいと思います。御家庭でも入費の重む時でありますが母校の一大事の時です。是非御援助下さいますよう重ねて御願ひ申し上げます。

数専会募金委員

昭和6年卒 豊泉 しげ TEL 0424—82—7680
昭和9年卒 溝口 雪恵 TEL 390—2606
昭和10年卒 朝永 領子 TEL 0422—44—2410
昭和20年卒 溝口 寛子 TEL
昭和23年卒 鈴木 吉 TEL 399—1151 (女子大)
昭和24年卒 根岸 愛子 TEL 0424—61—8559

研究部報告

昭和31年10月、研究部が発足してから今年で10年になります。このような研究会は続かないものと聞いて居りますので、とに角10年続けよう決心して出発致しました。その間にいろいろ御協力下さいました方達、特に、指導下さいました先生方にはどう感謝の気持を表わしてよいかわかりません。始めの目的、10年つづけることだけは達成出来そうですが、研究の内容につきましては、ただ勉強して実力をつけることも心要ですが、何か単位のとれるようなものを作りたい、という希望をもちながら、10年間どうすることも出来なかったのは申しわけないことと思つて居ります。なお、総計ゼミは途中から、小河原先生の御了解のもとに「数学研究室ゼミ」となりましたが、便宜上今まで通り数専会研究部で取り扱っています。

また37年夏から女子大追分寮で「夏季研修会」を開いて、先生方や皆様の御協力のもとに楽しい集りを続けて居ります。以上各部についてくわしい報告を書いて頂きますので、御覧の上どれにでも御参加下さいますよう、お願ひいたします。

(中屋 澄子)

読書グループ (中谷先生)

「教師のための数学入門」 一関数・図形編—

遠山 啓 著

月1回土曜2時より、於女子大学数学研究室

中谷先生をかこんで、毎月1回、読書のつどいを持っております。最近メンバーもふえ、大そう楽しい集りでございます。

少しでも広い視野をもって「新しい数学」について考えることが出来るようにと、

中谷先生から、わかりやすく、お教えいただいております。どうぞ何時からでも、御気軽に御参加下さい。きっと、皆様にお喜びいただけることと存じます。

(芝 紀子)

高校数学復習の会 (小林先生)

高校数学復習の会としてはじめた私達の勉強も、教 I II III と大学受験と問題集 2 冊を終える頃には、そろそろあきてきたので、小林先生をお願いして、大学数学の基礎を講義していただくことになりました。あまり難しいものでは長つづきしないので最初は「教養の数学」「解析学序説」「ベクトル」と月一度づつあらしの日も、寒い冬も、先生は一度もお休みにならずお教え下さいました。未熟な私達でわからないながら、現代数学の一部をのぞいた感じが嬉しく、月一度のお講義が待たれる思いでした。今は又先生のお講義からははなれて、昭和38年度からの新課程による高校の数Ⅲの勉強をしております。昨年は東京新聞の家庭欄に主婦の勉強と題して私達のグループの写真と記事が出ました。年はとっても家生時代と少しも変わらず、宿題をためてしまっただけで徹夜したとか、あんまり書いたり消したりしたのでノートに穴があいてしまったとか、今日は怠けてしまったから、誰か写させてとかほほえましい光景です。ただ違うのは試験のないこと、若し試験があったらつづかないわねなどといいながら、又子供達に試験もないのに何を一生懸命勉強なんかして、物好きの集りだねなどと悪口をいわれながらも、やはり月一度のこの集りをいつまでも続けていき度と思います。

(吉利 花枝)

解析ゼミ (西宮先生)

毎月第 2・4 月曜日夜 6 時から西宮先生のお宅で少人数ながら楽しく続けております。今まで読んだものは、吉田洋一著「点集合論」高木貞治著「解析概論」(5 章まで)、竹之内修著「トポロジー」。最後の本は時間をかけてかなり丁寧に読み、その続きとして現在、G. T. Whyburn「Analytic Topology」を 2 章までの予定で読んでおります。6 月からは少し方向を変えて、位相幾何の方を覗いてみることにし、大槻富之助著「位相幾何」(至文堂)を始める予定です。聴講も大歓迎、皆様の御参加をお願い致します。

(高宮 弘子)

電子計算機に関連した数学理論 (根岸先生を中心に)

毎月第 1・3 木曜日の夜 6 時から 8 時半頃までお菓子をつまみながら仲良く勉強

しております。アルファンゲルスキー等著、筒井訳の「電子計算機」を手初めとして当麻著「デジタル回路の論理設計入門」、岩波の現代応用数学講座の中から近藤・小野寺著「回路のトポロジー」、E. F. Moore 著「Gedanken—Experiments on Sequential Machine」等英文のオートマトン関係の論文を 4 つ程読み、昨年 5 月から現在まで宇田川銚久著「論理数学とデジタル回路」を輪読しておりますので皆様の御参加を歓迎いたします。

(内藤 淑子)

統計ゼミ (小河原先生、数学研究室主催)

毎月第 2、4 木曜日の夜 6 時から 8 時頃までの約 2 時間、大学の第 1 研究室で小河原先生御指導のもとに勉強を続けよう今年で 10 年程になります。10 年ひとむかし、そのひとむかしからのベテランから、まだ数ヶ月足らずのフレッシュマン迄、現在毎回 7~8 人集っております。37 年以後に読んだものは、M. I. T. の「Note on Operations Research 1959」、Howard G. Tucher、「An Introduction to Probability and Mathematical Statistic」、などを読んで、ダイナミックプログラミング自動制御、待ち行列、決定理論、シミュレーション、確率分布、仮説検定論などを学びました。他にも JORSA や JRSS の中からいくつかの論文も読んだりしました。

昨年秋からは、Thomas L. Saaty の「Mathematical Methods of Operations Research」をテキストとして現在に至っています。OR は現在では応用数学の花形になっていますし、又訳本もあったりで、英語の勉強にもなり一同はりきっております。今、第 2 部 5 章最適化の部分をしていきますがこれから線型計画法、ゲーム理論、待ち行列、在庫管理等、代表的な OR の模型を順次勉強してまいります。どのテーマもみな実際生活にむすびついた具体的なものを勉強できますから興味のある方、頭のトレーニングをなさりたい方、是非御参加下さい。

(大久保京子)

追分研修会

- 第 1 回 (37. 8. 22~24) 参加者 33 名
アメリカの大学の話 (根岸先生)
ある非線型過程と Coherence Function (小河原先生)
今後の研究会のもちかた (西宮先生)
- 第 2 回 (38. 8. 19~21) 参加者 28 名
現代の応用数学 (小河原先生)
大学のこの頃 (小林先生)
結び目の理論 (寺院先生)

現代の調理（上田フサ先生）

○第3回（39. 8. 17～19）参加者55名。

水質の問題から一般ベータ分希まで（小河原先生）

和算の問題と数学教育について（中谷先生）

大学のこのごろ（小林先生）

○第4回（40. 8. 17～19）参加者49名

Decision Making の話（小河原先生）

大学のこのごろ（小林先生）

Topology 歴史的発展段階（和田先生）

○第5回は41. 8. 17～19の予定です。浅間の大自然の中で、都会の暑さを忘れ、学生時代にかえって先生方に甘え、友と語りあう3日間は私達に新鮮な生きる力を与えてくれます。お子様づれで、気軽にご参加下さい。（池野和歌子）

厚生部報告 (昭和38年4月～昭和41年4月30日)

片岡ヒサ

○家庭教師名簿登録人数78人（東京都52人）

| | | |
|-------|---------|--------|
| ○求人 | 家庭教師50人 | 小学生2人 |
| | | 中学生23人 |
| | | 高校生25人 |
| 講師12校 | 高校2 | 中学10 |

専任の先生の求人が数校ありましたが適任者なし。又家庭教師も地域によっては適当な方がおられずお断りしました。

名簿に登録された方で地方に転居されたり結婚、出産等で中止された方は御一報下さいませ。中野区大和町3-41-4 (385-2352) 片岡 ヒサ

○会計 収入

26150

2980 (畠山さん扱)

計 29130

支出

10000 (教専会会計へ 39年7/9)

7000 (教専会会計へ 11/14)

5000 (教専会会計へ 40年11/6)

3100 (通信費)

計 25100

差引現土高

4030

S · S 会 報 告

昭和34年教理科を4年制にするための募金運動が始ったとき、募金実行委員会ではダンスパーティを2回開きました。募金の期間も終り、委員会も解散されましたので、第3回の開催につきましてはいろいろ考慮したのですが、親睦のために続けたいとの一部の御希望があり、また少しでも、数学の図書費をお手伝い出来るならばという気持ちも手伝って、教専会有志の会、S・S会として発足いたしました。その後は中村先生のデモンストレーションと共に、第4、5、6、7回と、年1回ずつ開いて、皆様の御協力のもとにわずかながら数学図書費を寄附させて頂いております。今年も第8回を11月頃開きたいと思ひ、中村先生もそろそろ御準備にかかられたようです。どうか皆様方の御協力をお願い致します。（中屋 澄子）

| 回 | 年月日 | 場 所 | 寄附した金額 (万円) |
|---|----------|-------------|-------------|
| 1 | 34.11.27 | 私 学 会 館 | 7 |
| 2 | 35.11.19 | O. A. G. | 6.5 |
| 3 | 37. 1.27 | 永 楽 | 2.5 |
| 4 | 37.11.30 | 主 婦 会 館 | 0.8 |
| 5 | 38.12. 6 | 主 婦 会 館 | 4.5 |
| 6 | 39.11.28 | 主 婦 会 館 | 2.5 |
| 7 | 40.11.27 | 都 道 府 県 会 館 | 2 |

荒巻あき子様は御主人の香典返しに、花岡松枝様は、講演お車代を図書購入のためご寄附して下さいました。

会員のご厚意にいつも感謝しております。

(数学研究室図書係より)

会計報告

(会計) 里村秀子

収入の部

| | 36年度 | 37年度 | 38年度 | 39年度 |
|----------|---------|---------|---------|---------|
| 前年度より繰越 | 99,431 | 84,979 | 18,155 | 85,475 |
| 終身会費 | 2,500 | 30,100 | 26,300 | 12,200 |
| 通信費 | 14,940 | 73,400 | 7,900 | 4,100 |
| 雑収入(寄附) | 3,933 | 3,200 | — | 17,000 |
| ブローチ返金 | — | — | 53,820 | 29,070 |
| 利子(郵便貯金) | — | 7,689 | — | — |
| 計 | 120,804 | 199,368 | 106,175 | 147,845 |

支出の部

| | 36年度 | 37年度 | 38年度 | 39年度 |
|----------|---------|---------|---------|---------|
| 通信費 | 4,490 | 44,533 | 13,090 | 5,290 |
| 事務費 | 2,285 | 86,100 | 180 | 1,650 |
| 雑費(含総会費) | 400 | 4,140 | 7,430 | 4,940 |
| ブローチ立替 | 28,650 | 46,440 | — | — |
| 次年度へ繰越 | 84,979 | 18,155 | 85,475 | 135,965 |
| 計 | 120,804 | 199,368 | 106,175 | 147,845 |

(注) 39年度雑収入は原生事業部片岡様よりの寄附です
37年度支出は会報発行の為多くなりました。ブローチの立替は39年度で全部返金されました。

数専会募金収支報告

収入の部

| | 寄附追加 | S・S会ダンスパーティ純益 | 利子 |
|------|---------|---------------|--------|
| 37年度 | 49,440 | 8,000 | 15,498 |
| 38年度 | 13,270 | 45,000 | 6,019 |
| 39年度 | 20,358 | 25,000 | 4,722 |
| 計 | 83,068 | 78,000 | 26,239 |
| 総合計 | 187,307 | | |

前年度より繰越 325,183+187,307=512,490

支出の部

図書費として学校会計へ

| | |
|-------|---------|
| 37年度 | 196,926 |
| 38年度 | 40,520 |
| 39年度 | 79,080 |
| 計 | 316,529 |
| 差引現在高 | 195,961 |

東京女子大学同窓会数専会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は「東京女子大学同窓会数専会」と称する。
- 第2条 本会は会員相互の親和と学術的研究を図ることを目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達するために左の事業を行う。
1. 講演会, 研究会並びに講習会の開催。
 2. 会誌の発行
 3. その他

第2章 会 員

- 第4条 本会の会員は左の通りとする。
1. 東京女子大学数学専攻部, 数学科及数理科卒業者。
 2. 東京女子大学数学専攻部, 数学科及書理科に一年以上土学した同窓会員。
- 第5条 本会の趣旨に賛同する東京女子大学現教員及旧教員は客員とする。

第3章 役 員

- 第6条 本会には左の役員をおく。
- | | |
|-------|-----|
| 会 長 | 1 名 |
| 副 会 長 | 2 名 |
| 書 記 | 2 名 |
| 会 計 | 2 名 |
| 会計監査 | 2 名 |
| 幹 事 | 若干名 |
- 第7条 会長は会員中より幹事会の推せんした者について総会でこれを決定するものとし、任期は2年とする。

会長は会の企画並びに運営に関する事務を総括する。

第8条 副会長は幹事の互選によりこれを決定し任期は2年とする。

副会長は、会長を補佐し会長事故あるときは会長の職務代行する。

第9条 書記。会計は幹事の互選によりこれを決定するものとし任期は2年とする。

第10条 会計監査は総会の承認を得て、会員中より会長がこれを委嘱するものとし任期は2年とする。

第11条 幹事は各クラスから1名以上選出する。

第12条 役員は補欠を必要とする時は前記手続によるものとし、補欠者の任期は前任者の残りの期間とする。

第4章 総 会

第13条 定期総会は年1回会長がこれを召集する。

会長は必要に応じ幹事会議を経て臨時総会を召集ことができる。

第5章 幹 事 会

第14条 幹事会は会長が之を召集する。

第15条 幹事会は会長の諮問に応じ本会の行うすべての企画運営について審議決定を行う。

第6章 会 計

第16条 本会の会計年度は毎年4月1日より始まり翌年3月31日に終る。

第17条 本会の会員は会員各自が終身会費として次に定める金額を卒業時に納入する。

昭和6～24年卒 200円 昭和25～29年卒 300円

昭和30年卒以降 500円

第18条 本会は通信費を会費以外に必要に応じて徴収することができる。

第7章 会 則 の 変 更

第19条 本会会則を変更するときは総会で出席者の3分の2以上の賛成を得なければならない。

附 則 本会則は昭和35年4月29日より実施する。

編 集 後 記

各地にはなればなれになっている会員の心と心をつなぐ会報第8号を、ようやくお届けする運びとなりました。まず、お願いした原稿をおいそがしい先生方をはじめみなさんが、心よく引き受けて早く書いて下さったことに、係として感謝しています。それなのに、郵便料金値上げ前の6月に発送できなかった不手際が残念です。小林先生の感謝会の記事をのせたいし、6月中には発送したいしと努力は、したつもりでしたが、結果は大切な数専会の会費を郵政省に余分に納めた感じです。

第8号は、これを手にした会員たちが、数専会の存在を考え、みんなの会として今後どうしたらいいか、会の前進のために意欲をもやしていただけたら一と念願して編集しました。いかがでしたでしょうか。どうぞ、ご感想、ご意見をたくさんお聞かせ下さい。
(堀・池野)

会 報 第 8 号

発行 昭和 4 1 年 7 月

発行者 東京女子大学同窓会 数専会
東京都杉並区善福寺2丁目6-1

発行所 東京女子大学内
東京都杉並区西高井戸2-3

印刷所 氷 見 印 刷 所
電話 (391) 7936番